

# 2023 年度後期 授業評価アンケート結果

## 1. 公開期間

2024 年 5 月 31 日 ~

## 2. 公開対象

IPU 学生および教職員

## 3. 公開方法

以下 3 通りの方法で閲覧が可能です。

(1) 環太平洋大学ホームページ「本学の取組」

(2) UNIVERSAL PASSPORT

※公開期間 2024 年 5 月 31 日~2024 年 7 月 31 日

(3) 図書館（館内に常設された閲覧用冊子）

## 4. 内容

授業評価アンケート結果をもとに、授業担当教員が「授業哲学」「総評」「次年度に向けての改善点」「学生へのメッセージ」等をまとめたものです。

授業の意義や内容をより深く理解するとともに、次学期以降の授業選択等に役立てることができます。

## 目次

■ 現代経営学科	.....	1
■ こども発達学科	.....	25
■ 教育経営学科	.....	31
■ 健康科学科	.....	64
■ 体育学科	.....	74

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
基礎ゼミナール I [通年]現代経営学科(留学生)	27	27	100.0	4.74	0.27	4.78	0.17	4.78	0.17	4.81	0.15
英語IV	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
英語 I 全学科(上級者対象)	9	5	55.6	4.40	0.64	4.40	0.64	4.20	0.96	4.60	0.64
英会話 [PP7組用]	33	27	81.8	4.26	0.56	4.07	0.74	4.22	0.54	4.22	0.54
英会話 [PP5組用]	36	22	61.1	4.55	0.34	4.41	0.42	4.41	0.51	4.50	0.43
英会話 [PP4組用]	39	31	79.5	4.19	0.61	4.10	0.80	4.06	0.77	4.23	0.63
英会話 [PP1組用]	42	31	73.8	4.35	0.49	4.32	0.54	4.19	0.74	4.45	0.38
英会話 [PH1組用]	32	30	93.8	4.17	0.67	4.03	0.90	3.90	0.76	4.20	0.76

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

Students should walk into my classroom knowing it is a safe learning environment that will peak their intellectual curiosity and allow them to take the risks necessary to acquire new knowledge. Students should be given ample time and multiple opportunities to show they have acquired knowledge using a standards-based approach to assessment. Students should grow a passion for learning in my classroom that will create a growth-mindset and lifelong learning. Students' studies in my class will foster a sense of themselves within a greater world view to help them become global citizens. Students will be active learners where they feel they have a voice to influence the learning in class. Students will begin to create a passion for learning where their inquiry drives a natural acquisition of knowledge. Students will know they are held to a high standard in my class and only their best effort will be accepted. Students will learn the importance of academic integrity. Lastly, students will have fun learning in my class and want to come to class knowing they have a dedicated teacher who cares about them.

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

It was nice to read so many student comments! There were many comments about having fun, learning expressions, using English, talking with friends, improving little by little, and improving and communicating in English. I am so happy to hear that many students enjoyed the lessons. I am especially happy to get comments from some students that they were glad to have a native speaker. They were many students that noted having a native speaker was nice. As much as I can I want students to have a chance to change their mindset and challenge themselves. I will keep trying to set learning goals that challenge students and try to always be flexible and helpful so my students can maximize their learning. Thank you for all your comments and I will strive to make more active, impactful lessons using your thoughts to improve future lessons at IPU.

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

英語 IV – Teaching this class was interesting for me since we were able to target specific areas of student interest. It was nice to have deep, meaningful conversations with a student in English. I felt it was a great way for me to learn about student interests and ideas and the student was able to practice and improve English.

英語 I – This was a really, really fun class for me to teach! It was nice to have another native speaker and to get to try many activities together due to the small number of students in the class. It was a really unique experience for me. Students always did their best and really, really try to communicate in English all the time. Thank you for that! It was nice to read a few comments about providing “an English speaking environment” and that “It was fun to communicate in English. Just overall an excellent experience for me!

### 4. 学生へのメッセージ

Learning a second language can change your life path! Living and learning here in Japan has certainly changed everything about me and my own path! Thank you to all the students that are taking the steps to becoming life-long learners and accept the challenge of second language learning.

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
現代経営実践演習基礎Ⅱ	45	42	93.3	4.12	0.58	4.19	0.58	4.12	0.68	4.19	0.58
キャリアマネジメントⅠ [公務員]	93	83	89.2	4.23	0.88	4.13	1.05	4.18	0.92	4.24	0.95

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

現代経営実践演習基礎Ⅱでは、前期の授業に引き続き、公務員試験に頻出の政治・経済分野の授業を行いました。日々のニュース等も授業の中に取り込むことで、1年時から政治・経済に興味を持ってもらえるようにしました。

キャリアマネジメントⅠでは、公務員試験をはじめとする就職試験に頻出である「数的推理」を中心として計算などの基本的な部分も含めて授業を行いました。基礎的な問題だけでなく応用問題も授業の中で取り入れ、classroomを活用し、数学が得意な学生と苦手な学生のどちらもが興味を持って取り組めるようにしました。また、昨年度に比べて小テストの回数を増やし(3回⇒5回)自宅学習の機会を増やすようにしました。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

現代経営実践演習基礎Ⅱ

① 確認テストで、繰り返し問題を解くようにし、「政治や経済の復習になっている」とコメントをもらえた。より授業を受けて良かったと評価してもらえるようにしていきたい。

② 毎回必ず学生一人ひとりが口頭で質問に答える機会を設けるようにした。

キャリアマネジメントⅠ [公務員]

① 昨年度より高い授業評価をいただいたが、一部の学生は期末テストのための勉強になってしまうので、毎回の確認テストで類題を出題するなど知識定着の工夫が必要。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

いずれの科目も、公務員試験での出題科目であることをふまえて定期テスト期間にテストを実施するようにしています。小テストも含めて、事前に告知してあるテスト範囲をきちんと復習しておくことで高評価を取ることができると思います。今後も4年次の公務員試験等に向けて、学んだことを復習するようにして下さい。

### 4. 学生へのメッセージ

今後、少しでも知識が定着する授業となるように、さらなる改善を続けていきます。公務員試験は範囲が多くたくさんのことを学ばなければならないので大変ですが、早期から学習することで得意科目を増やすことができます。また、これからも授業時に3年生や4年生の受験状況なども伝えていきます。みなさんの「夢」実現のために一緒に取り組んでいきましょう。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
基礎ゼミナールⅠ [通年]現代経営学科②	42.5	37	87.1	4.24	0.72	4.24	0.67	4.24	0.67	4.38	0.56
ミクロ経済学	108	95	88.0	4.32	0.68	4.32	0.68	4.18	0.74	4.29	0.65
マクロ経済学	112	97	86.6	4.29	0.72	4.32	0.65	4.16	0.76	4.27	0.71
フレッシュマンセミナー [通年]クラス②	297.5	237	79.7	4.00	0.94	4.00	0.81	4.01	0.86	4.05	0.85
ゼミナールⅡ(応用)	17	13	76.5	4.46	1.17	4.46	1.17	4.46	1.17	4.46	1.17
ゼミナールⅠ(基礎)	7	7	100.0	4.57	0.53	4.29	0.78	4.14	1.27	4.43	1.10
コンピュータリテラシーⅡ [BC2332組用]	45	43	95.6	4.14	0.91	4.26	0.80	4.05	0.93	4.14	0.86
コンピュータリテラシーⅡ [BC2331組用]	52	49	94.2	3.84	0.83	3.73	0.85	3.67	1.04	3.73	1.22
アジア経済論	16	9	56.3	4.56	0.69	4.33	1.11	4.11	1.21	4.33	1.78

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

授業だけでなく、何事も「正しい方向にむかって、適切な努力をすること」。学修も、もちろん同じです。専門が金融なので、「実際にはどうなのか」を重視します。目的をもって受講してもらうのが一番ですが、現実的には、単位数やら時間割の都合やらで受講している学生も少なくないでしょう。そうであっても、受講した学生が、毎回、1つでも「今日受講してよかった」と思える内容にしていこう……これが講義に対する私の姿勢です。

### 2. 全体的な振り返り ※中間アンケートにも言及

前期同様、経済経営学部の基幹科目を担当しました。ミクロ経済学、マクロ経済学は、継続的な改善を続けている授業です。4年間の学修のなかで根幹をなす1年次必修科目ですので、単に授業をする・受けるというだけでなく、学修する内容、方法、受講者相互の関わり等々、様々な面で「基幹」となることを心掛けました。他方、基礎ゼミ、ゼミナール等、年次配当型の「クラス科目」では、“あることが当たり前、受講することが当たり前”というのではなく、それぞれの学年でなすべきことを改めて意識することから初めました。

### 3. 科目別の振り返り ※中間アンケートにも言及

新規の担当の「コンピュータリテラシー」と継続担当の諸科目を担当した半年間でした。コンピュータリテラシーは、2クラスを担当し、同じ内容、同じ授業方法で実施しているのですが、授業評価では差異が出ており、改めてスキル型授業の難しさを感じました。24年度も引き続き担当予定ですので、受講生一人一人の理解度をより慎重に確認しながら進めていきたいと思えます。ミクロ経済学、マクロ経済学は、昨年度よりも、受講生の学修状況、進捗等々にあわせてかたちを進めることを心掛けてきました。受講者数の面では、前年度よりもマス教育になっていましたので、一人一人に目配せかきかどうか心配な面はありましたが、授業評価としては、向上・安定したようです。本年度も引き続きこの方針で進めていこうと思えます。

### 4. 学生へのメッセージ

前期末に病気療養し、9月からの新学期からは本格的に復帰という学期でした。“先生お久しぶり。大丈夫？”と声をかけてくれる学生が多かったことをうれしく思います。今期もまた、1年生の基礎ゼミ担当として、かつ1年生の必修科目担当として、24年度入学生と多くの時間を過ごしました。入学直後は、まだ高校生のような感じがしましたが、後期になったら大学生らしくなりましたね。その調子で残りの3年間、充実した大学生活を送ってください。一つ言えるとすれば、授業開始前・終了時の号令では、誰かが声を出すのを期待するのではなく、自分から、そして全員で、「おねがいします」「ありがとうございました」と当たり前のようにできるようになってください。次年度は君たちが「先輩」になり、新入生の模範となる立場です。

担当:教務課/IR調査・分析委員会



## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
ゼミナールⅡ(応用)	6	6	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	4.00	0.00	4.00	0.00
ゼミナールⅠ(基礎)	7	7	100.0	4.57	0.24	4.57	0.24	4.43	0.53	4.43	0.53
キャリアデザインⅡ [企業]	282	235	83.3	4.41	0.65	4.32	0.81	4.33	0.81	4.34	0.74

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

社会に出たときに役立つものを伝えたいというのが私の授業方針である。とくにゼミIIにおいてはコーチングのスキルやマインドセットを伝え、学生がそれらを体得することで実現できていると考える。ゼミIIIにおいては学生は論文の書き方やプレゼンの方法を習得できたと思う。キャリアデザインについては、生涯に渡って役立つキャリア教育と就活のノウハウの双方のバランスをとりながら授業を展開している。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

ゼミについては、少人数ということもあり高評価をもらっている。個別対応をしている証左かと思われる。キャリアデザイン(企業)IIIについては、どの項目も22年度の後期のスコアより0.2ポイントほど上昇しており、また23年度前期の評価よりも0.3ポイントほどアップしている。22年度の学生は異なる履修者なので、単純比較はできないが、23年度の前期よりアップしていることは、学生の自覚が高まっていること、ならびに授業内容がニーズにあっていることを示していると思われる。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

ゼミIIにおいては、成績をプレゼン、最終テスト、目標達成度の自己申告の3つから総合的に採点した。点数については、ゼミ生全員に個別に事前に知らせて、納得感を高めた。ゼミIIIにおいても、事前に成績を知らせて納得感を得た。デザインにおいては前期の結果を踏まえて、後期は提出課題のハードルを上げ、より難解な問題を解かせた。その結果、S～Cの分布が広がったと思われる。

### 4. 学生へのメッセージ

実学的な授業を提供する目的で前期は教科書「キャリアデザイン講座」を使用している。後期は就活に役立つノウハウが満載で、デザインではなくて就活サポートという授業名に変更したらどうかという学生からのコメントが1名あった。総論的には授業を通して、自己分析ができて中長期的なキャリアの展望が開けるならば、ある程度目標は達成できたと考える。学生の選択肢としては企業就職の他に、起業や留学もあり、300名近い履修者全員を満足させることは困難だが、常に最大公約数を探って行きたいと思うので、ぜひ授業についてのフィードバックを気軽にしてもらえたら嬉しい。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
幼児英語指導法Ⅱ	7	7	100.0	4.71	0.20	4.71	0.20	4.71	0.20	4.71	0.20
基礎ゼミナールⅠ [通年]現代経営学科①	90.5	86	95.0	4.14	0.77	4.09	0.78	4.02	0.86	4.15	0.73
英語Ⅰ(基礎) 再履修者	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
英語Ⅰ 全学科(中級者対象)	11	11	100.0	4.45	0.25	4.27	0.38	4.36	0.41	4.55	0.43
英会話 [PP8組用]+PP再履修者	31	27	87.1	4.33	0.59	4.33	0.52	4.33	0.59	4.56	0.40
ゼミナールⅡ(応用)	10	10	100.0	4.50	0.65	4.50	0.65	4.50	0.65	4.50	0.65
ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナールⅠ(基礎)	8	8	100.0	4.13	0.86	4.13	0.36	4.00	0.75	4.38	0.48
ゼミナールⅠ(BC秋入学生用)	2	2	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

英語は言語の1つであり、コミュニケーション手段の単なるツールです。発音が上手ならば、文法のミスがなければ、たくさんの単語を知っていれば、それはそれで相手に伝えやすいでしょう。しかし、そういった条件が整っていないでも、「伝えたいことがある」「伝えたいという強い気持ちがある」のならば、パーフェクトな英語でなくても十分だと思います。つまり、肝心なのは、伝える側の工夫だと考えます。

授業では、伝えるべき内容をひとまず与えますが、学習者一人ひとりが、持てる力を十分に発揮し、コミュニケーションを積極的に取ろうとする態度を向上させてもらいたいと考えています。発音が下手でも、文法のミスがあっても、知らない単語だらけでも、目の前の人と英語を通じて分かち合いたいというコミュニケーションの原点を大切に、授業を展開していきまし。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

英語 I では、前向きに取り組む学生が多く、ペアワークによる音読練習を通じて、クラスが仲良くなり、盛り上がっていったと思います。お互いに高めあう学びの集団になっていったと感じます。私自身も授業が大変楽しかったです。後期最後のプレゼンテーション「世界遺産」では、発表資料の作り込み、発表内容の精選等、素晴らしいものばかりでした。

英会話では、体育学科8組の皆さんと勉強しました。英語の勉強が好き、あるいは得意という人ばかりではないことはわかっていたのですが、どの学生も一生懸命に取り組んでくれました。最後のプレゼンテーションについては、準備時間が限られる中、個々に指導できる時間はありませんでした。大変仕上がりがよく、それぞれが一生懸命準備してくれていました。素晴らしい発表がたくさんありました。

幼児英語指導法では、模擬保育(英語レッスン)について、それぞれのグループが工夫をして、発表に臨んでいました。小道具の制作や役割分担、英語の歌や体を使った動きなど、時間をかけて準備してくれていました。うまくいったところ、うまくいかなかったところもありましたが、しっかり振り返りができていたので、今後に活かしてもらいたいと思います。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

成績評価に関しては、第1回目の授業で、詳細に説明しました。授業外課題40%、授業に対する積極的な態度30%、最終プレゼン30%です。特に私は、授業における皆さんの前向きな態度を数値化し、頑張っている人が必ず評価されるようなシステムを構築したいと考えています。そこで、挙手をして答えてくれた回数を記録し、成績に反映させました。このことは、皆さんと共有し理解してもらいました。よって、何人もの人が、授業中、自らの頭で考え、自分の解答を答えてくれたり、前の時間の復習内容をどんどん答えてくれました。活気のある授業になるよう協力してくれた人がたくさんいました。この人たちは、態度点として高い評価を得て、成績に反映されていたと思います。また、最終プレゼンについても、事前に評価のポイントを告知していました。したがって、プレゼンの何が大切なのかを理解して、攻略できたのではないかと思います。成績評価については、これらの視点から、皆さんの頑張りが評価につながるようにしていますので、納得してもらえたのではないかと思います。

### 4. 学生へのメッセージ

学生の皆さんは、英語が好きか否かに関わらず、大学入学までは「英語学習をやらされていた」という思いは、多少なりともあったと思います。しかし、これからは、英語学習を楽しんでもらいたいと思います。英語を学ぶことによって広がる世界、思考の厚み、多様性に富む友人関係を楽しみに、マイペースでよいので、毎日少しずつ、英語のリスニングをしたり、英語を口に出して発音したりして、断続的に英語に触れる時間を確保してください。そのお手伝いが、わたしの英語の時間でできたらよいと願っています。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
地理・地政学	161	138	85.7	4.46	0.50	4.45	0.52	4.44	0.55	4.46	0.54
多文化共生のための異文化理解	157	127	80.9	4.46	0.48	4.46	0.55	4.46	0.53	4.46	0.55
近現代史	146	119	81.5	4.50	0.45	4.50	0.50	4.49	0.49	4.52	0.45
ビジネスマナー	93	79	84.9	4.49	0.48	4.37	0.61	4.43	0.50	4.47	0.55
ゼミナールⅡ(応用)	23	21	91.3	4.62	0.43	4.57	0.44	4.43	1.01	4.62	0.43
ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナールⅠ(基礎)	11	6	54.5	4.67	0.22	4.67	0.22	4.50	0.58	4.67	0.22
IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)	35	29	82.9	4.45	0.66	4.48	0.59	4.38	0.79	4.52	0.46
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック) [再履修者用]	24	14	58.3	4.21	1.03	4.36	0.94	4.21	1.03	4.29	1.06

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私は、大学というのは本来、リベラルな考え方に基づいて自由に研究や議論をし、異なる価値観や新しいシステムを提示していく存在だと考えています。それが今は社会が求める従順な人間を作ることが目的になってしまっているのではないのでしょうか。国の教育行政も、そうした教育内容になるような制度や規則を設け、これに対応していくうちに、高等教育もいろいろ縛りが増えてきている感じています。大学で重要なのは「リベラルアーツ」。高い教養を身に付け、人間とは何か、どんな社会が望ましいかを考える力のことです。自分の頭で考えることを怠ると、わたしたちは知らず知らずのうちに今ある社会システムに自分を当てはめ、いわば「イエスマン」になり、新しい生き方を模索できなくなってしまう。そうならないために教養や哲学が重要なのです。私の授業では「正解」を求めない、考える授業、未来を想像していく授業を展開していきたいと常に思って担当しています。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

学生の皆さんからの評価を見ると、全体的に高評価をもらっているのは有難いことです。特にIPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)では農林水産省中国四国農政局と連携し、有機農業や農福のテーマを取り上げ、何名かは実際に農業体験をしてもらいました。時間の関係上、参加できなかった人もいましたが、自分の理想とする授業ができたかと思えます。また大人数の教養科目「地理・地政学」「近現代史」で高い評価をいただいていることは正直嬉しく感じます。「多文化共生のための異文化理解」は毎年受講者数が増え、やりたい活動などができないこともありました。来年度の課題としたいと思えます。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

成績評価に関しては第1回目の授業オリエンテーションで示した基準をもとに算出しています。公平・公正に成績をつけています。授業に出で、課題を提出すれば、ある程度の成績は残せるでしょう。ただ、大学の学びとはそういうものでしょうか。奨学金や部活などで成績を気にするのはわかりますが、学びの目的が成績であってはいらないと思えます。成績は後からついてくるものです。

### 4. 学生へのメッセージ

多くの皆さんに受講していただき感謝しています。高校までの「中間・期末試験のため」「受験のため」「内申書のため」あるいは「親のため」の勉強ではなく、大学では「自分のため」「将来のため」に学ぶことが求められます。そのためには「疑問を持つ」「自ら調べる」「仲間と話し合う」「自分の考えを発表する」力が必要です。正解のない問いに向かうことは大変ですが、楽しみでもあります。「学習」が「楽習」となり、一生続けていく素養を身につけるのが大学です。自信を持って立ち向かってほしいと思えます。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
企業経営実践論Ⅱ	38	31	81.6	4.39	0.95	4.23	1.47	4.23	1.40	4.19	1.77
プロジェクト研究	33	28	84.8	4.14	0.98	4.11	0.95	4.11	0.95	4.11	0.95
ビジネス特別講義Ⅱ	5	5	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	4.80	0.16	5.00	0.00
ゼミナールⅡ(応用)	24	23	95.8	4.61	0.50	4.57	0.51	4.48	0.68	4.61	0.50
ゼミナールⅠ(基礎)	10	9	90.0	4.44	0.69	4.44	0.69	4.44	0.69	4.44	0.69
スポーツ産業論	74	63	85.1	4.30	0.59	4.24	0.69	4.13	0.94	4.24	0.82
スポーツイベント論	64	53	82.8	4.34	0.68	4.25	0.64	4.25	0.64	4.28	0.81

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

学生に身につけていただきたいこと 1. 自主性:自ら学ぶ、常に自分が源として考える。2. 自律性:自分を律する。自分で考え、自分で自分を管理して生活をする。3. 倫理:人として守るべき道。善悪・正邪の判断において普遍的な基準となるもの。道徳。モラル。  
人は生涯学び続けることができる。学ぶ習慣がある人と、学ぶ習慣がない人は、人生において大きな違いとなる。大学生活の中で、自分の夢・ビジョンを抱き、目的・目標を明確にし、4年後に自分はどんな自分になりたいのか、そのために何を学び、何を体験していくのか。自分で計画を立て達成するというスモールステップを重ね、自信をもって社会に出て活躍できる人材を育成する。生涯学び続けるという考え方と習慣を、大学の学びの中で習得する。自分の人生を自分で考える力を養う。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

企業経営実践論Ⅱは、岡山県内の優良企業の社長に講義や質疑応答をしていただき、企業経営者とはどのような人物なのか知ることができ、学生にとってモチベーションの上がる授業ができた。プロジェクト研究は、企業の求人の応募者数を増加させるための調査・提案を行い、学生自ら自分の今後のキャリア形成の参加になったと考える。ビジネス特別講義Ⅱは、連携協定を結んでいる両備ホールディングス株式会社と共同で、岡山市の公共交通を考えるというテーマで、講義をしていただいたり、学生がフィールドワークを行い、s歩の結果から提案をプレゼンテーションした。スポーツイベント論は、岡山県eスポーツ連合と連携して、岡山市、岡山ふれあい公社と共同で、高齢者のeスポーツ体験会を実施した。実際のイベントを企画し、運営をする体験型授業を行った。実践型の授業ができたことが良かったと考えている。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

企業経営実践論では、毎回レポート課題の提出を課し、授業の習熟度、理解度を評価した。プロジェクト研究・ビジネス特別講義Ⅱは、フィールドワークや調査の報告書、プレゼンテーション資料の内容及び発表、中間での課題レポートの提出に対して評価した。スポーツイベント論は、企画書の作成・イベント運営の実践での対応、報告書、グループワークでの参加態度を評価した。ゼミナールⅠ・Ⅱは、授業の参加態度、課題レポートの内容、グループワークでの参加態度を評価した。また、すべての科目において、出席状況を評価対象とした。

### 4. 学生へのメッセージ

IPU・環太平洋大学の創業の精神「挑戦と創造の教育」を理解し、自ら実践できることを目標に学生生活を過ごす。挑戦と創造を生涯にわたって、実践することで、学生の皆さんの人生がより豊かに充実したものになると思います。

担当:教務課/IR調査・分析委員会



## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
統計学基礎	107	91	85.0	4.21	0.60	4.14	0.69	4.13	0.73	4.21	0.52
社会調査法	17	15	88.2	4.07	0.86	4.07	0.86	4.00	0.80	4.13	0.78
資格検定対策Ⅱ(情報系)	98	70	71.4	4.41	0.50	4.31	0.73	4.24	0.78	4.33	0.73
経済数学入門Ⅱ	92	87	94.6	4.25	0.65	4.24	0.69	4.15	0.79	4.24	0.62
基礎ゼミナールⅡ [通年]現代経営学科①	56.5	49	86.7	4.00	0.69	4.00	0.69	3.92	0.69	3.98	0.71
マーケティングリサーチ	66	54	81.8	4.26	0.53	4.26	0.67	4.17	0.73	4.19	0.78
ビジネスデータ分析	95	75	78.9	4.25	0.86	4.28	0.81	4.24	0.85	4.24	0.90
ゼミナールⅡ(応用)	14	11	78.6	4.82	0.15	4.91	0.08	4.82	0.15	4.91	0.08
ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナールⅠ(基礎)	10	10	100.0	4.00	0.60	4.00	0.60	4.10	0.49	4.20	0.56
キャリアディベロップメント [通年]クラス①	294.5	245	83.2	3.91	1.10	3.89	1.13	3.88	1.18	3.92	1.11

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

単にスキルを身につけるだけではなく、実践で生かせる能力を身につけられるようにすることを目的としている。資格関連科目についても同様に資格対策を中心にその周辺の知識も含めて情報を提供する。それによって、基礎を身につけ、応用を自らの力で可能となるようにする。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

自身の担当する科目の満足についてはすべて4を超えている。専門科目でもっとも高かった資格検定対策Ⅱにおいては資格・内容の理解をわかりやすくてきたようであり、特に資料を提供しつつ板書をしながら進めたことが良かったと思われる。経済数学入門Ⅱも難しい内容ではあったが、履修者は経済数学の理解を深められたようである。統計学基礎、ビジネスデータ分析はPCを利用した科目であるが、Excelの利用が難しいと感じるところも多かったようであるが、データ分析の基礎を身につけることはできたように思われる。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

シラバスに提示した評価内容に従って、それぞれを点数化して成績を評価した。経済数学入門Ⅱ、統計学基礎、ビジネスデータ分析は授業内課題の提出を評価の対象としていたが、その提出状況が大きく成績に影響した。これらの科目を含め、他の科目は中間課題、最終課題を課したが、課題内容をしっかり捉えて課題に取り組めたかによって成績の評価がわかれた。

### 4. 学生へのメッセージ

毎回の課題にしっかり取り組んで積み重ねていくことで最後には大事な能力が身につきます。安易に答えだけを求めると実際に調査・分析をするときに役立つスキルにはなりません。わからないことに立ち向かう、時間をかけて考えるということを積み重ねることがそれらのスキルを身につける近道です。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
日本語教育概論 I	61	48	78.7	4.27	0.74	4.33	0.68	4.19	0.86	4.23	0.84
日本ビジネス事情	41	26	63.4	4.54	0.40	4.50	0.48	4.54	0.48	4.50	0.40
プロジェクト研究(社会調査系)	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
キャリアデザイン II [BC留学生用]	49	35	71.4	4.37	1.09	4.40	1.04	4.31	1.02	4.40	1.21

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

授業では一方通行にならないよう、できるだけ学生からの発話ができるような問いや学生主体の活動を取り入れている。また、学生同士がチームで取り組む課題もできるよう配慮している。チームで何かをする場合、単独でする場合には起きない問題も出てくる。チームでの活動がうまくいくときうまくいかないときもあるが、それらはすべて学生の経験になると考える。実際の社会では誰かと連携を取りながら課題を進めていくものであるからだ。チームでの活動がうまくいかなかった場合もそれで終わりではなく、より良い着地点を考えてみてほしい。さらに、次につなげる糧にしてほしい。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

全体的に高い評価をいただいた。授業への関心やニーズが高い評価となっており、学生への科目の提供として概ね適切であると思われる。一方、自信がついたかという質問に対してはあまり高くない科目もあるが、学習を始めた基礎段階であるため、今後さらに科目を受講する中で自信をつけていってほしいと思う。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

ほとんどの授業では毎回課題か予習・復習を課している。それらを着実にこなしていくことが必須である。授業中の課題やグループワークや発表での出来栄も加味されるため、集中して取り組んでほしい。

### 4. 学生へのメッセージ

楽しくて有意義な学習を目標に授業づくりをしています。授業を通して何か一つでも知ったことがある、できるようになったことがあると嬉しいです。みなさんが授業に積極的に参加すると、より深い学びや新しい発見につながります。これからも、ぜひ一緒に楽しい授業を作っていきます。

担当: 教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
世界経済論	58	45	77.6	3.96	1.02	4.09	0.93	3.98	0.91	4.09	0.84
国際経済学	163	129	79.1	4.35	0.71	4.36	0.76	4.33	0.75	4.36	0.74
ミクロ経済学	72	67	93.1	3.91	0.86	3.91	0.89	3.79	0.97	4.01	0.91
マクロ経済学	76	71	93.4	4.04	0.66	4.00	0.73	3.83	0.93	4.07	0.77
ゼミナールⅡ(応用)	8	5	62.5	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナールⅡ(BC秋入学生用)	9	5	55.6	4.60	0.24	4.60	0.24	4.20	0.56	4.40	0.24
ゼミナールⅠ(基礎)	6.5	5	76.9	4.20	0.56	4.20	0.56	4.00	0.80	4.20	0.56

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

学生にとって少々難しい内容でも、大学教育の水準を損なわない程度には理論や哲学を盛り込み、講義を行なった。しかし、その際、解説はできるだけゆっくりとわかりやすく行なった。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

世界経済論、国際経済学は、留学生の関心は高かったが、日本人学生を十分惹きつけることはできなかった。学期中に起こったイスラエルのガザ攻撃やロシアのウクライナ侵攻など、世界情勢の解説を組み込んで、できるだけ興味を持ってもらうように努力したが、そもそも国際情勢に関心がないことがわかり、今後はさらに内容を研究する必要があることを反省した。マクロ経済学は、日本の経済停滞、少子高齢化、デフレ・インフレなど、具体的な内容を含んでおり、それなりに理解してもらったと思うが、ミクロ経済学は、関数のグラフが中心の内容になっているため、ついていけない学生が3分の1ほどみられた。グラフや数式を使わずに展開するのが難しい授業だが、今後は改善が必要だと感じた。ゼミは、論文指導では高い評価を得た。学生には満足してもらえたと思う。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

国際経済学は、世界経済論より理論が中心で難しい授業であったが、国際経済学の方が学生の理解度は高かった。これは、それぞれの授業に参加している学生のレベルや意欲に大きな違いがあったからと思われる。授業開始時に、いち早く学生の理解度や関心度をつかみ、内容を調整する必要があると感じた。マクロ経済学、ミクロ経済学は、レベルを保ちながら、しかしわかりやすく優しく教える工夫が必要である。講義の前半で、一次関数、二次関数の基本をもう一度おさらいする機会を入れていきたいと思う。ゼミにおける論文指導は、提出直前が慌ただしくなるので、次回はもっと早めに仕上げるよう指導していくつもりである。

### 4. 学生へのメッセージ

理論的な部分は確かに難しいが、辛抱強く学ぶと、論理的思考力が身につく、そのことは課題発見力や課題解決力につながる。また、世の中の仕組みや流れを知ることが、賢く生きていく力になる。地道な毎日の積み重ねが必ず社会人としての力量を養ってくれるので、がんばって毎日の小さな努力を続けてほしい。

担当: 教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
非認知能力育成Ⅱ [留学生用]	20	18	90.0	4.78	0.17	4.78	0.17	4.78	0.17	4.83	0.14
非認知能力育成Ⅰ [秋入学生]	17	8	47.1	4.88	0.11	4.75	0.44	4.75	0.44	4.88	0.11
日本語表現Ⅱ [秋留学生]	19	12	63.2	4.83	0.14	4.83	0.31	4.92	0.08	4.92	0.08
日本語表現Ⅱ [BC留学生用]	18	15	83.3	4.87	0.12	4.93	0.06	4.73	0.20	4.87	0.12
日本語教授法Ⅰ	32	30	93.8	4.30	0.74	4.40	0.31	4.43	0.31	4.47	0.38
日本語EX(文型・会話)② [BC留学生用]	17	15	88.2	4.73	0.20	4.80	0.16	4.67	0.36	4.73	0.33
総合日本語Ⅰ(基礎) [秋留学生]	10	9	90.0	4.78	0.17	4.78	0.17	4.78	0.17	4.78	0.17
基礎ゼミナールⅠ [通年]現代経営学科(留学生)	27	27	100.0	4.74	0.27	4.78	0.17	4.78	0.17	4.81	0.15
異文化コミュニケーション	48	37	77.1	4.62	0.40	4.59	0.40	4.49	0.47	4.54	0.46
フレッシュマンセミナー [通年]クラス②	297.5	237	79.7	4.00	0.94	4.00	0.81	4.01	0.86	4.05	0.85
ゼミナールⅡ(応用)	14	13	92.9	4.77	0.33	4.77	0.33	4.69	0.37	4.77	0.33
ゼミナールⅠ(基礎)	4	4	100.0	4.75	0.19	4.75	0.19	4.75	0.19	4.75	0.19
ゼミナールⅠ(BC秋入学生用)	3	3	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私は留学生にとって、「日本語ができる」とは「資格取得+その資格にふさわしい運用力を身に付けている」状態だと考えています。そこで、受講生にとって分かりやすく、かつ「分かった」だけにとどまらない「できた」と思ってもらえるような授業を心がけています。そのため、理論や意味を教えるだけにとどまらず、実際の日常場面や専門科目のプレゼンテーション等の場面でどのように学んだ表現を使えるかを意識して、発話練習も多く取り入れるようにしています。また、ライティングについても、専門科目でレポートを書く時に使えるようにということを意識しています。□

□

□

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

わたしが担当した中のほとんどの科目において、4.5を上回っていたため、学生たちにとって満足のいく授業が提供できていたのだと安心しました。ただし、日本語教授法Ⅰだけ、4.5を下回ってしまったため、他の授業ほど興味・関心が持てるものではなかったのだと反省しています。授業評価をもとに原因を分析してみると、「教員の話聞くという時間が多かったこと」が挙げられていました。教授法の歴史を伝える際は講義形式にならないよう、グループワークを挟むよう注意していたのですが、やはり「講義形式」という時間が長かったのだと感じます。学生たちが主体的に学びを得られ、かつ必要な情報もインプットできる、そのような授業を模索して参ります。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

後期の科目は、留学生向けの日本語科目と「日本語教授法Ⅰ」「異文化コミュニケーション」などの専門科目の2種類に分けられます。日本語科目については、定期的なテスト、毎回のテストを実施していたため、学生の点数をもとに客観的な指標で成績評価ができたのではないかと思います。「異文化コミュニケーション」においても、客観的な指標ということを重視し、毎回小テストを実施、「日本語教授法Ⅰ」についてもテストを実施しましたので、点数化については問題ありませんでした。プレゼンテーションや授業実習など主観的な評価になりがちなものについては、事前に評価のポイントを伝えるなどどのように成績がつけられるのか学生たちにとって分かりやすいようにしましたが、それが客観的に分かりやすいよう今後も追究して参ります。

### 4. 学生へのメッセージ

留学生の皆さん、わたしは1年生に対する授業が多かったので、1年生の人は他の学年の人よりもたくさん私と会うチャンスが多かったことと思います。これから多くの専門科目を受講していくと思いますが、全ての基礎となるのは日本語の「話す」「聞く」「読む」「書く」の4つのスキルです。これから多くの専門科目を受講して、学びを深めてください。

そして、日本語教師の資格を目指す皆さん、日本語教師と言う仕事は、授業実践だけではなく、外国語としての日本語の知識、社会的情勢、歴史の把握、学習者に合った教授法、指導法、アプローチの理解が必要となります。そして、何よりも日本語学習者の学習をサポートしたいという「熱い思い」です。今後も一緒に悩み、考えていきましょう。□

担当:教務課/IR調査・分析委員会



1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
ゼミナールⅡ(応用)	16	16	100.0	4.56	0.62	4.44	1.00	4.50	1.00	4.50	1.00
ゼミナールⅠ(基礎)	11	10	90.9	4.70	0.41	4.60	0.44	4.80	0.16	4.80	0.16
SDGs入門	69	55	79.7	4.33	0.55	4.31	0.65	4.33	0.58	4.31	0.58

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

学生が受動的でなく「主体的に学びたくなる場」をつくることを念頭に置いて授業計画を立てています。モチベーションを高めるため、内発的動機づけである自律性(自己決定感)、関係性(対人交流)、有能感を重視した活動を多く取り入れました。また、経営学部の学生を対象とした科目であるため、将来、企業で働くことを意識して授業設計しています。

与えられる知識を学ぶだけでなく、社会に存在する様々な問題について自分で考え、自分の言葉で表現し、他者と意見を交わし合いながら、議論する経験ができる授業を心がけています。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

ゼミナールⅡ(応用):一人を除く全員から高く評価され、ホッとしました。自分が専攻した学問領域とは異なる分野でゼミを持ち、4年生16名のゼミ論を指導するのは至極困難でしたが、学生それぞれの進路や志望に合ったテーマを選び、ゼミ生と共に学びながら研究調査プロセスを歩み、論文を纏めたことは大変有効だったと感じています。次年度は論文指導にもっと時間をかけていきます。

ゼミナールⅠ(基礎):実践活動を重視し、ゼミで大学内の課題解決に当たったことは、学生の意欲を引き出し、チームビルディング、満足度向上にも大いに貢献したと感じています。他のゼミよりも仲が良い、ゼミの時間が楽しいと学生たちがフィードバックくれることに、喜びを感じます。

SDGs入門:留学生が半分近くの大教室授業で、学年も異なる多様性のあるグループディスカッションおよび、SDGsに関する多くのテーマの専門家をお呼びして、幅広い見識と理解を深められたことに対し、満足度の高い評価をもらったと推測しています。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

ゼミナールⅡ(応用):ゼミ論文の成績評価に関しては、少々甘かったかと反省しています。今後は、評価軸を明確にして、指導及び評価をしていきたいと思えます。

ゼミナールⅠ(基礎):チーム活動への貢献、レポート、主体性などを評価軸に成績をつけました。今後は、ルーブリックとして学生に提示し、何を達成したいのかを常に意識して目的意識を持ってゼミを進めていきたいと思えます。

SDGs入門:授業へのエンゲージメント、レポート、テスト等から、細やかに成績評価をしました。大人数のレポートを毎回見るのは大変時間がかかりますが、学生それぞれの感想、意見、理解度を知ることができ、授業のブラッシュアップに役立っています。

### 4. 学生へのメッセージ

チーム活動を通じて「主体性」「議論する力」「問題解決する力」を鍛え、社会で生きていく力を身につける授業・ゼミを心がけていますプレゼンテーションの機会も多く、人前で発表する事に自信がついたと大半の受講生たちが口にしておりました。来年度以降も、地域に、そして世界に視野を向けて、社会に横たわる課題を見つけ、それをチームで解決していく力をつけたい学生さんをお待ちしています。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
保育内容「健康」指導法 [FC2222組用]	41	40	97.6	4.48	0.65	4.43	0.74	4.43	0.79	4.50	0.75
保育内容「健康」指導法 [FC2221組用]	29	29	100.0	3.90	1.40	3.93	1.37	3.86	1.43	3.97	1.27
保育実習指導Ⅱ(保育所)	55	55	100.0	4.78	0.32	4.78	0.28	4.73	0.38	4.73	0.38
保育実習指導ⅠA(保育所)	56	56	100.0	4.41	0.71	4.32	0.83	4.20	1.09	4.27	0.87
子どもの食と栄養 [FC2122組用]	72	72	100.0	4.50	0.72	4.49	0.64	4.49	0.56	4.51	0.47
基礎ゼミナールⅡ [通年]こども発達学科	50.5	49	97.0	3.78	1.24	3.76	1.16	3.69	1.15	3.78	1.24
ゼミナールⅡ(応用)	8	8	100.0	4.50	0.25	4.63	0.23	4.50	0.25	4.50	0.25
ゼミナールⅠ(基礎)	10	10	100.0	4.70	0.41	4.70	0.41	4.70	0.41	4.80	0.36
キャリアデザインⅡ [企業]	282	235	83.3	4.41	0.65	4.32	0.81	4.33	0.81	4.34	0.74

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

授業では、経験に即した内容を取り込むように指導しています。例えば、幼児期運動指針では、「生活が豊かになることで、必ずしも高い体力を必要としなくなった」とありますが、この生活が豊かになって体力を必要としなくなった例について、ディスカッションする時間を設けるようにしています。子どもの食と栄養では、実際のお菓子も持参してもらい成分表示に着目したりすることで、普段の食生活との関連性についても考えることができ量に配慮しました。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

保育内容「健康」指導法 [FC2222組用]と保育内容「健康」指導法 [FC2221組用]の間には平均値で差があった。授業内容は同じ内容をしていたので、受講者のニーズに応えることができていなかった可能性が高い。保育なよう健康指導法に関しては、学生が指導案を立案し、学生を子ども役に見立てて、模擬保育を実施する授業である。受講者数が[FC2222組用]の方が多かったこともあり、子ども役の数が多いこともあった。模擬保育の展開数の工夫などは行ったが不十分であったと感じた。基礎ゼミナールⅡ [通年]こども発達学科に関しては、平均が4.0を下回った結果であった。こちらは2年生63名を3名の教員で指導していた授業であった。全体で行ったり、クラスごとで行ったり、大学行事との関連が授業内容であった。今年度も2年生を担当するので、改善に努めたい。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

そのほかの科目については4を上回る結果であった。子どもの食と栄養については、初めて担当する、科目であったが、ゲストスピーカーを呼んだり、生活に関する、食事の内容を扱ったりした結果であると感じた。

### 4. 学生へのメッセージ

授業の第7回など、途中でアンケートをとり自身の進め方や、授業内容、また座席や室温、配布資料など様々な面で学生の学修しやすい環境に整えることができるよう配慮していきます。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
保育実習指導Ⅱ(保育所)	55	55	100.0	4.78	0.32	4.78	0.28	4.73	0.38	4.73	0.38
保育実習指導ⅠA(保育所)	56	56	100.0	4.41	0.71	4.32	0.83	4.20	1.09	4.27	0.87
保育・教職実践演習(幼稚園)	61	61	100.0	4.70	0.31	4.62	0.43	4.57	0.44	4.62	0.43
キャリアデザインⅡ [幼保]	43	43	100.0	4.70	0.35	4.67	0.31	4.58	0.43	4.60	0.43

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

保育・教育は終わりのない問いだと考えている。4年間の授業や実習での「人」や「こと」との出会いが生涯学び続けたいと思えるスタートになってほしいと思い授業をしている。問い続けることの面白さ、人の考えと交流することで自身の考えを深めていくことの面白さを感じられるよう、授業では毎回根拠や理由を問い、グループで話し合う機会を取り入れている。子どもにとって初めて出会う家族以外の身近な人となる保育者は、人の人生に大きな影響を与える。常に子どもの最善の利益を考え、自身の保育や人との関わりについて問い続けられる保育者になってほしいと思っている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

全授業の平均は注意項目4.65、関連項目4.6、自信項目4.52、満足項目4.56でありおおむね目標は達成できたものと考えている。実習と直結した科目では、保育士、幼稚園教諭、保育教諭を志す学生、とその他の進路を希望する学生との意欲に開きがあるため、受講ニーズや満足度に関きがあったものと思われる。しかし、進路や将来の自分につながる科目では学びへの意欲が高かった。学びへの意欲や満足感が感じられる授業内容、授業方法を工夫する必要があると考えている。また、事前学習時間が少ないことが明らかになり、課題の検討が必要であることが分かった。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

保育実習指導 I Aでは、初めての実習に向かう科目であることから、授業内で学ぶべきことや課題が多いため、自信項目や満足度に対する評価が下がったものと考えられる。実習につながる科目が連携して、学生の学びを学科全体で緩やかにすることで、安心して実習に向かえるよう学科で検討してみたい。保育・教職実践演習では、学びの必要性や集大成であることを自覚できたことで意欲的に授業に取り組めたものと考えている。学生の実態を踏まえた上での授業内容を考えていきたい。

### 4. 学生へのメッセージ

皆さんの学びたい思いにこたえられるように今後も授業改善に努めていきます。受講者の皆さんと一緒に授業を作っていきたいと思っていますので、学びたい内容や疑問に思ったことなどを遠慮なく教えてください。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
倫理学(宗教を含む)	51	42	82.4	4.17	0.71	4.17	0.66	3.90	0.99	4.12	0.91
保育内容「言葉」指導法 [FC2222組用]	28	28	100.0	4.00	1.00	3.86	1.05	3.86	1.05	3.86	1.05
保育内容「言葉」指導法 [FC2221組用]	31	31	100.0	3.71	1.30	3.68	1.32	3.48	1.54	3.68	1.32
保育実習指導Ⅲ(施設)	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
非認知能力育成Ⅱ ディスカッション	63	52	82.5	4.15	0.48	4.15	0.48	4.10	0.51	4.15	0.48
道德教育の理論及び指導法(中等) [FE初等/FC]	53	46	86.8	4.00	1.22	3.72	1.29	3.67	1.31	3.59	1.55
言葉の理解 [FC再履修用]	3	3	100.0	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22
基礎ゼミナールⅠ [通年]こども発達学科	38	35	92.1	3.94	0.80	3.89	0.79	3.86	0.87	3.97	0.71
フレッシュマンセミナー [通年]クラス①	304.5	269	88.3	3.78	0.97	3.78	0.91	3.81	0.92	3.86	0.87
ゼミナールⅡ(応用)	5	5	100.0	4.80	0.16	4.60	0.64	4.60	0.64	4.40	1.44
ゼミナールⅠ(基礎)	4	4	100.0	4.50	0.25	4.50	0.25	4.50	0.25	4.50	0.25

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

受講生との〈対話〉を重視している。

いかなる授業であっても(講義スタイルの授業であっても)〈対話〉を可能な限り実施し、授業担当者と受講生の有益なインタラクションが生じるよう努めている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

全体的に高い水準にあるが、「道德教育の理論および指導法(中等)のみがやや低い結果となった。

同じ内容を実施した前期の同名授業では高い授業評価を得たので、後期の受講生のニーズに合った授業を提供できなかったと思われる。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

ほぼすべての科目で最終試験を実施している。

それに課題提出等による授業内評価を合わせ、受講生一人ひとりの学修成果を適切に計測するよう努めている。

結果として、今回の成績評価も妥当なものになったと考えている。

### 4. 学生へのメッセージ

大学の授業は自身の今後の学習へのイントロダクションです。

授業だけですべてが完結することはありません。

授業中に紹介した文献等を読み進め、自分で学習を進めていってください。

担当:教務課/IR調査・分析委員会



## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
教職実践演習(中学校・高等学校)[英語]	21	18	85.7	4.39	0.46	4.33	0.67	4.17	0.81	4.33	0.67
英語科教育法Ⅳ(実践)	33	32	97.0	4.47	0.44	4.16	1.01	4.16	0.88	4.38	0.42
英語のリズムとイントネーション	32	31	96.9	4.55	0.51	4.35	0.75	4.32	0.80	4.45	0.70
映画とテレビの英語	27	23	85.2	4.61	0.50	4.52	0.86	4.43	1.03	4.48	0.86
ゼミナールⅡ(応用)	3	3	100.0	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22
ゼミナールⅠ(基礎)	8	8	100.0	4.25	1.19	4.50	0.50	4.25	1.19	4.25	1.19

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

- (1) 学生が毎回の授業に期待感をもって臨むことができる
- (2) 学生が肯定的な学習経験を積み重ねていく
- (3) 学生が自ら学び、他者と学び合う意義を感じることができる

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

相対的に、教職科目:「教職実践演習」と「英語科教育法Ⅳ」が低かった(4.33・4.38)。指導案書きやソロ模擬授業、試験問題作成、authentic materialsを元にした教材作成など、どれも英語教師として身に付けておくべき重要な知識・技能ではあるが、「初めて」のことがこの後期に集中し、学生にとって負担感が多かったように思う。学習カウンセリングをもとに授業修正していったが、来年度は、教育法Ⅰを中心にほかの科目とも連携し、点と点がつながるカリキュラムを意識した授業を行っていきたい。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

英語技能系科目:「英語のリズムとイントネーション」・「映画とテレビの英語」の成績評価が全体的に高かった理由として考えられるのは、ルーブリックを作成し、達成すべき目標を事前周知しているため、①学生自身が何をすべきか明確に理解し見通しをもった上で、記録に残す評価を行う場面・時期まで継続して授業外でも主体的に準備・練習してきたこと;②毎回の課題に対する中間指導・評価を行うことで、学生のパフォーマンスの質が確実に高まっていったことである。

### 4. 学生へのメッセージ

授業評価アンケートへの回答、ありがとうございました。私独自のリフレクションへの回答もありがとうございました。皆さんが毎回私の授業で何を学び身につけたのか、何を難しく感じているのか、何を学びたいと思っているのかを把握でき、授業修正する際に大変参考になりました。今後も、「私の授業哲学」を体現する授業を追求していきます。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
実践英文法(応用)	14	13	92.9	4.92	0.07	4.92	0.07	4.85	0.13	4.92	0.07
英語科教育法Ⅱ(応用)	25	22	88.0	4.55	0.25	4.55	0.25	4.41	0.61	4.45	0.34
リーディング・スキル(実践)	20	17	85.0	4.47	0.25	4.53	0.25	4.47	0.25	4.59	0.24
リーディング・スキル(基礎)	49	42	85.7	4.60	0.34	4.52	0.44	4.48	0.54	4.57	0.39
リーディング・スキル(応用)	23	17	73.9	4.71	0.21	4.65	0.23	4.59	0.36	4.71	0.21
ライティング・スキル	15	13	86.7	4.46	0.71	4.69	0.21	4.69	0.21	4.62	0.39
ゼミナールⅡ(応用)	9	9	100.0	5.00	0.00	4.89	0.10	4.89	0.10	4.89	0.10
ゼミナールⅠ(基礎)	9	9	100.0	4.67	0.22	4.67	0.22	4.44	0.47	4.67	0.22

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

真面目さや誠実さを最大限に評価します。もちろん、理解度確認テストや定期試験を行うため、そんなに簡単に「S」評価は出ませんが、意欲のある人の背中を強く押せる授業を行いたいと願っています。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

オンデマンド授業(5種)の満足度がすべて4.50を超えたのは、履修者の頑張りによるところが大きいと思っています。事前課題、理解度確認テスト、意見交換、定期試験の流れをしっかり理解し、長時間をかけて学習に取り組んでくれた成果が反映されたのだと信じています。逆に、対面授業の英語科教育法Ⅱ(4.45)ではじめて4.50を切ったのはショックでした。前半部のアクティビティやICT研修に時間をかけすぎ、後半の「英語による英語の導入授業」への時間配分が足りなかったように感じています。次年度は改善します。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

対面・オンデマンドの別を問わず、事前課題、理解度確認テスト、意見交換で授業を構成しています。多少、出来が悪くとも、期限提出を心がけていれば、「C」は出ます。そこに事前課題の完成度と理解度確認テストの高得点(ともに90%以上)が加われば、「S」になります。

### 4. 学生へのメッセージ

旧1年生(新2年生)の欠席の多さが気になりました。進路が決まっている人は心配ありませんが、決まっていない人はムリに決めようとせず、まずは日常の学修(や部活やバイト)と真摯に向き合ってください。スモールステップで歩いていけば必ず道は開けます。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
キャリアデザインⅡ [教職]	161	143	88.8	4.63	0.36	4.57	0.52	4.51	0.56	4.52	0.57

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

#### キャリアデザインⅡ

本講座は、前期のキャリアデザインⅠに引き続き、教職を目指す学生が、教員に必要な資質・能力や教育課題への対応、教育現場の現状などについて、講義・講話、グループディスカッションなどの活動を通して学んだり、理解を深めたりしていくことを目的としている。受講している学生は、前期の取り組みの中で、「教職に就きたい」という思いを強めている学生が多いものの、まだどの道に進むかを決めかねている学生もいる。本講座が、学生自身のキャリア形成に役立つとともに、教員採用試験合格に向けて努力を重ねていくための原動力となることを期待している。そこで本講座は、「教育現場の課題」や「教師に求められる資質や能力」などの学習を通して、多様な視点から教職に対する考えを深めたり、先輩から教員採用試験合格のための取り組み方を具体的に学んだりすることができる講座として設定している。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

#### キャリアデザインⅡ

授業評価アンケートでは、全項目で平均値が4.5を超えており、学生の授業に対する満足度は比較的高く、おおむね良好な結果である。キャリアデザインⅠ(前期)の1回目と15回目、キャリアデザインⅡの15回目の計3回、学生の「教職への思い」(5段階尺度により測定:迷っている(1点)→絶対に先生になりたい(5点))について調査した。「絶対先生になりたい」の割合が、前期の1回目は47%、15回目が64%、後期の15回目が75%と、教職への思いが強くなっている様子がわかる。また、「迷っている」(教職に就かない)割合も、3%、5%、8%と増加しており、教職に就くか就かないかは別として、将来への思いを明確に持つことができていった様子がうかがえる。キャリアデザインの授業方針の一つでもある、「キャリア形成に役立つ」ことができたと考える。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

#### キャリアデザインⅡ

評価項目は、「出席(20%)」「学習態度(20%)」「各回のレポート(20%)」「最終レポート(40%)」と設定した。学習態度については全員または担当の教員で3段階(5・4・3)で評価することで、より客観的なデータを収集することができた。最終レポートは、第1評価者と第2評価者の2段階で評価を行った。第1評価の平均点を参考にしながら評価基準をそろえることで、評価者間のばらつきを抑えるように工夫した。S・A・B・C・Dの比率については、前期のキャリアデザインⅠと同程度になるように調整した。

### 4. 学生へのメッセージ

#### キャリアデザインⅡ

「教員を志望する理由は何か。」という質問に対して、皆さんの多くが「恩師との出会い」を取り上げて回答します。これは、児童生徒にとって先生という存在がとても大きなものであり、児童生徒の人生に大きく影響を及ぼす可能性があるということです。その責任は重大です。また、変化の激しい社会の中で、夢や希望を持ち力強く生き抜いていける児童生徒を育てることも、決して簡単なことではありません。それでも皆さんは教員を目指し、日々努力を重ねています。どうしてでしょうか。それは、皆さんが教員という仕事に大きなやりがいと魅力を感じているからです。児童生徒と関わり、支え、励まし、導き、そしてその成長を一番間近で見守ることができる、このような仕事は他にはないからです。皆さんが「教員になる」という目標を達成するためには、これからもまだまだ多くのことを学ばなければいけません。しかし、皆さんは一人ではありません。同じ目標を持つ仲間がいます。そしてもちろん、私たちも皆さんの目標が達成できるように力を尽くします。目標達成のために「チームIPU」として共に力を合わせてがんばりましょう。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
基礎ゼミナールⅡ [通年]教育経営学科	88.5	59	66.7	4.14	1.13	4.19	1.10	4.12	1.32	4.19	1.27
ゼミナールⅡ(応用)	7	6	85.7	4.83	0.14	4.83	0.14	4.83	0.14	4.83	0.14
ゼミナールⅠ(基礎)	8	7	87.5	4.14	2.12	4.14	2.12	4.14	2.12	4.00	2.00

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

授業に関しては常に実践的であること、みなさんが教員になってから役立つような授業を心がけています。ただし大学教員として常に理論の追究は考えています。理論と実践の融合が永遠のテーマです。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

授業評価に関しては高い評価をありがとうございます。卒業後もぜひ情報をいただきたく思います。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

2同様、高い評価をありがとうございます。

### 4. 学生へのメッセージ

内田ゼミの特質として特に卒業して教員になった方との連携を図っていきたいと思っています。それが理論と実践の融合となるからです。ぜひご協力ください。

担当:教務課/IR調査・分析委員会



## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
次世代教育学 [教育経営学科用]	197.5	166	84.1	4.37	0.78	4.31	0.86	4.23	1.01	4.34	0.85
国語科教育法 [FE2233組用]	33	26	78.8	4.42	0.55	4.42	0.78	4.27	0.97	4.19	1.16
国語科教育法 [FE2232組用]	31	23	74.2	4.35	0.92	4.26	0.89	4.26	0.98	4.22	1.04
国語科教育法 [FE2231組用]	31	22	71.0	4.55	0.34	4.45	0.70	4.45	0.52	4.55	0.52
基礎ゼミナール I [通年]教育経営学科①	112.5	99	88.0	4.33	0.67	4.36	0.57	4.29	0.67	4.39	0.54
学習指導と学校図書館 [A]	50	42	84.0	4.31	0.55	4.31	0.55	4.19	0.68	4.33	0.60
ゼミナール II (応用)	7	7	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナール I (基礎)	3	3	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

国語科教育法では、授業準備、挨拶、出席を取るところから皆さんが小学校の教師となることを前提に授業を進めていきます。すらすら一斉音読や鉛筆の持ち方、ノートの取り方、発問・指示の出し方、漢字やひらがなの筆順、グループ活動、模擬授業、小論文を書く活動などの活動を通して、国語科教育に対する理解を深め、実践力の向上を図っていきます。ゼミナールは、学生の皆さんと共に、体験的な活動を計画し実践していきます。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

ほぼ毎回、授業の振り返りを原稿用紙に書いてもらうか、口頭で全員発表してもらうかという活動を取り入れています。それらの感想から、学生の皆さんが、「見方が変わった」「新たな発見だった」「もっと早く知りたかった」など、新たな学びを深めていることがよく分かりました。また、疑問を率直にぶつけてくれる学生もいました。今後、授業の質をさらに高めるために、学生同士の学び合いの場をもっと設定していきます。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

国語科教育法では、授業の方針(授業ルール・成績評価の方法など)を初めに示しています。大変意欲的に授業に取り組むことができていました。ゼミの時間はとても楽しい時間となり、学び合い高め合う時間がとても貴重で有意義な時間となりました。さらに、体験的な活動を増やしていきたいと思います。

### 4. 学生へのメッセージ

学び合い、高め合うことのできる、より質の高い「楽しさ」を追求していきましょう。

担当:教務課/IR調査・分析委員会



## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

大学の授業は、専門性が高く難しいのが当たり前である。しかし、難しいことを難しい言葉のみで教えても、当然理解できない。そこで、平易な言葉や身近な事例を示して説明・解説することで、万人に理解できることを目標としている。また、学生の義務は、「様々な事情で大学に行きたくても行けなかった人」に習得した内容を教え、伝えることだと考えているので、授業内容はしっかり理解させ、正しい知識と技術を身に付けさせられるように工夫している。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

学生が課題を回答中に教室内を巡回し、なるべく個別に質問が受けられ、質問しやすい状況を作りながら授業を展開した。中間アンケートで「少し難易度が高い」ことが挙げられていたが、より分かりやすい事例を取り入れて解説した。

リテラシー系科目は、少し難かじめの課題を予習として出題し、自立学習を促した。今後、履修者全員が満足できるような、より魅力のある講義を目指したい。また、難解な科目をより分かりやすく講義・解説するように心がけ、学ぶことの楽しさを知らない学生にその魅力を伝え、積極的な授業参加を促したい。更に、講義中に質問をしやすい状況を作れるように授業を組み立てていく。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

<数学>授業後の小テスト(70%)+期末試験(30%) <コンピュータリテラシーⅡ>事前課題(30%)+講義内課題(30%)+中間試験(20%)+期末試験(20%) <コンピュータリテラシーⅢ>授業内で扱った課題への取り組み方(30%)+中間試験(30%)+期末試験(40%) <コンピュータリテラシーⅣ>授業内で扱った課題への取り組み方(30%)+中間試験(30%)+期末試験(40%)

※中間・期末試験については、以下の評価基準にて評価した。

①全く条件を満たしていないが、期限内に何かしらの提出があった→5点 ②「最低条件」を一部満たしていない→7点 ③「最低条件」を全て満たしている→10点 ④授業の内容を全て取り入れ、評価のできる課題となっている→15点 ⑤授業の内容を全て取り入れ、理解し、完成度の高い課題となっている→20点 ⑥期限後の提出は、半分の点数。未提出、白紙は0点

※S・A・B・C・Dの評価割合は、上記の基準に照らし、妥当な数であった。

### 4. 学生へのメッセージ

どの授業も一人ひとりが、非常に真面目に取り組んでいたのが、スムーズに授業が展開できました。講義で習得したスキルは、今後の大学生活だけではなく、社会人になっても必要なものです。様々な場面で活用してほしい。また、コンピューターの分野は日進月歩する分野ですので、現状に満足せず常に最新の情報を取り入れ、日々学習を続けてほしい。学校図書館は、子供たちにとって非常に重要な教育の場です。良書をしっかり見極められるように、まずは自分自身が多くの本を読んで下さい。また、教職員にとっても非常に重要な場所です。情報関連機器の使用はもちろんのこと、その操作方法の指導が出来るようにしておくことも重要です。学校現場も多様化した時代ですので、オールマイティに対応できるように自身を磨き続けてもらいたい。

担当:教務課/IR調査・分析委員会



## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

幼・小・中・高・特別支援学校では、学習指導要領の改訂の中で資質・能力の育成をめざして、主体的・対話的で深い学びを軸とした授業改善が行われている。このことは、大学での授業においても共通するものであり、学生が表面的な知識や技能の獲得のみに留まることなく、問題の本質に迫り、自らが課題解決に向けて主体的に行動することが必要である。そのため、授業の中に、グループワークや演習、自己表現の場を積極的に取り入れていき、自分の考えをまとめ、表現し、議論をしていく過程の中で、自分とは違う考えに触れることにより、物事を一面的でなく多面的に捉え、深く課題に迫ってほしいと考えている。教師と学生、学生相互の議論を基軸とした授業でありたい。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

授業方針の中で述べている「教師と学生、学生相互の議論を基軸とした授業」を実現させていくためのグループワーク、演習等の授業形態を部分的に取り入れたが、特別支援教育、特別支援教育論Cは、どの授業も人数的には多く、なかなか学生が深い思考を行う状況を作ることができにくかった。そのような中、一方的な講義にならないように、グループで考えたことや講義で身に付けた知識を全体の前で発表する機会を設けた。このように実際に協議した内容を発表したり、学んだスキルを講義の中で実演するということは、講義を聞いたというレベルに留めず、実際に行うことで、そのもの持つ意味や困難さを実感することができたのではないのかと考えた。また、今回の講義場所が受講人数の関係でグループワーク等を行いきにくい環境であったが、このような環境の中で「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業のあり方をさらに検討し、改善を行っていききたい。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

特別支援教育論Cでは、多くの学生は幼・小・中・高等学校の教員を目指していることから、発達障害に少し傾斜させて講義を行った方がよいと考えた。特に支援方法について、幼・小・中・高等学校でどのようなことが行われているのか、校種別に映像等で示すことができれば、より具体的にイメージを持つことができたのではないのかと考えた。特別支援教育は、特別支援学校教員免許状の取得を目指す科目であり、また、1年生で受講する導入の科目であることから、見学や演習等、実際に障害のある人とのかかわりの中で学ぶ機会を増やし、実際の場面でのかかわり方や対応力なども評価の観点として取り上げていく必要がある。いずれにしても、知識だけの評価に終わることなく、得た知識をどのように応用般化させ問題の解決を図ろうとしているのかをしっかりとみていきたい。

### 4. 学生へのメッセージ

特別支援教育は教師を目指すものとして必ず身に付けておかないといけない基本事項だと考えています。令和4年12月には、通常学級で学ぶ児童生徒の中で、特別な支援が必要な児童生徒が8.8%いるという報告が出されました。35人学級でいえば各クラスに3人は在籍するということになります。今後は、すべての教員が特別支援教育の専門性を身に付け、特別な支援が必要としている子どもに対して適切な対応ができることが必要となります。教職に必要な1科目というような消極的な捉えではなく、特別な支援が必要な子どもも含めすべての子どもたちに豊かな学びを保障していくために必要な内容というように積極的に捉えてもらいたいと考えています。「個別最適化」「インクルーシブ教育」等のキーワードが実現される豊かな授業、学級経営を目指していくために学び続けていきましょう。

担当: 教務課/IR調査・分析委員会



## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

学校現場では、教師として児童の前に立ったその時から求められる知識や技能があります。それは教育現場に立ってから経験によって身につくものも多くありますが、学生の段階で学び、獲得できるものもあります。基本的な指導方法、教材研究の仕方、教科書の使用法、場面に応じた児童への関わり方など、ある程度の実践力を授業を通して学び取ることができるよう授業を行っています。できるだけ具体的な事例を取り上げて授業を行うこと。グループ協議を取り入れること。体験的な活動を取り入れること。この3つを授業の中に取り入れるように心掛けています。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

「生活科教育法」では、小学校教員免許を取得し将来教員として教育現場に立とうという学生のみなさんを対象としています。したがって教師の関わり方のポイントは何か、子どもをどのように見取るかといった「指導」に関する内容と、学習指導案の作成と模擬授業の実施といった「授業づくり」に関する内容で授業構成をしました。授業評価から見て、こうした点は求められていると判断できますので、引き続き取り組んでいきたいと考えます。「生活の理解」は小学校の教科「生活科」についての基本的な理解を目的とした科目です。学習指導要領に示されている内容を実際に使用されている検定教科書の各ページから拾い上げて具体的に解説するようにしました。オンデマンドでしたが、授業評価から理解度や学習内容の分量等も適切であったと判断できました。基礎ゼミは「教職への道」の過程でこの時期に意識してほしいことを学年担当の教員で話し合い実践してきました。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

「生活科教育法」の評価は、授業後の振り返りレポートの内容を重視しました。学んだことを自分なりに受け止めて「実感を持った理解」に至ったと判断できる回が多ければSまたはA評価になります。期待したコメントになっていない場合はBまたはC評価としています。「生活の理解」の評価は、レポート課題の内容を重視しました。課題に対して自分の言葉で具体的に記述されているかとの観点でSまたはA評価の判断をしています。記述内容が乏しく理解が浅いと判断した場合はBまたはC評価としました。S評価できる優れた学生と努力を必要とする学生の2極化がどちらの科目にも見られました。

### 4. 学生へのメッセージ

教師を目指す学生の皆さんに実践力をつけてほしいと考えています。具体的な事例を通して考える、体験を通して考える、グループ協議を通して考える、この3点は授業の中で今後もしっかりと取り組んでいきます。教壇に立った時「そういえば…」と思い出してくれるようなことがあれば嬉しく思います。また、学習指導案を適切に書けるよう丁寧に指導していきたいと考えています。

担当:教務課/IR調査・分析委員会



1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1 (注意)		項目2 (関連)		項目3 (自信)		項目4 (満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの理解と援助 [FC2222組用]	32	32	100.0	4.19	0.65	4.03	0.78	3.94	1.06	3.94	0.93
子どもの理解と援助 [FC2221組用]	33	33	100.0	3.91	1.17	3.88	1.14	3.88	1.32	3.94	1.09
ゼミナールII (応用)	10	10	100.0	4.80	0.16	4.80	0.16	4.80	0.16	4.80	0.16
コミュニケーションの心理学	84	72	85.7	4.42	0.41	4.38	0.48	4.33	0.50	4.35	0.53

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学 (または授業方針)

高校教員であった頃から数えると40年以上にわたり教育に携わってきたが、やはり教員は「授業が命」である。森信三先生が、「教師としての人生」と題した文章で、「教育という仕事は、相手の生命に火を点じて、これを目ざめさす点にあり、それはまた相手の人間を、真に主体的に自己を確立させることにありましよう。」と述べておられるが、授業を中心とした学生とのかかわりの中で、こうした実践をめざして今後も努力していきたい。

2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

子どもの理解と援助…こども発達学科の依頼を受けて担当した。C幼稚園や保育園の指針なども参考に、授業を工夫した。毎回簡単な振り返りの小テストを実施したことを評価してくれた学生もあり、工夫の甲斐があった。卒業必修でもあり、熱心に取り組む学生が多く見られた。グループでの話し合いを毎回取り入れたので、お互いに影響を受けたところもあったようである。

コミュニケーションの心理学…毎回ペアワーク・グループワークを取り入れて実施できた。3,4年生対象で、進路・就職を意識してコミュニケーション力の向上を目指すことができた。アンケートの回答にも「毎授業ワークがあったので楽しく授業ができた」「コミュニケーション能力が身についた」という感想があり、授業目標を達成できた。

3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

子どもの理解と援助…クラスにより、授業態度に少し違いがみられたが、毎回の課題を丁寧に遂行している学生が多く、概ね良い評価であった。授業中の課題や事後課題、グループワークでの意欲などを成績評価に加えた。欠席の多い学生が少数だが見られ、単位修得に至らなかったことが残念である。

コミュニケーションの心理学…授業中のワークの振り返りに加えて、毎回の心理学に関する小テストを評価対象とした。また、成績の60%を占めるレポート課題を2題課した。コミュニケーションについて考えを深める内容としており、ほとんどの学生が基準をクリアしていた。全体的にS・Aが多い成績であった。

4. 学生へのメッセージ

こども発達学科の2年生を中心に、「子どもの理解と援助」の授業を実施しました。学科の特色を濃く持っている授業であり、保育士・幼稚園教諭を目指している皆さんの真摯な態度に感心しました。実習を控えて、学ぼうとする意欲も高かったと思います。

「コミュニケーションの心理学」を受講していた学生は、3,4年生であり、常に進路希望を意識して、受講していたと感じます。コミュニケーション能力を高めたという希望と、心理学をより深く学びたいという意識を持った学生が多く、お互いが良い影響を与えて、ワークにも取り組んでいたと思います。それぞれの進路先で、少しでもお役に立てば幸いです。

担当：教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
特別支援教育論B [B]	59	47	79.7	4.60	0.37	4.57	0.46	4.55	0.50	4.62	0.45
特別支援教育論B [A]	91	75	82.4	4.64	0.42	4.53	0.54	4.51	0.52	4.53	0.52
特別支援教育総論 [FE初等]	65	54	83.1	4.76	0.18	4.76	0.18	4.69	0.25	4.76	0.18
次世代教育学 [教育経営学科用]	197.5	166	84.1	4.37	0.78	4.31	0.86	4.23	1.01	4.34	0.85
基礎ゼミナール I [通年]教育経営学科①	112.5	99	88.0	4.33	0.67	4.36	0.57	4.29	0.67	4.39	0.54
ゼミナール II (応用)	7	4	57.1	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナール I (基礎)	5	5	100.0	4.60	0.24	4.60	0.24	4.60	0.24	4.60	0.24

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私の担当する授業では、教育臨床からの実際的な学び、神経心理・認知心理などの観点から学びの背景の理解、次世代教育に必要な知見の獲得、主体的な学び等を重視するよう考えています。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

総じて4.55以上の評価をいただいております。全体的にはこれまでの授業を継続したく考えます。ただし、小学校免許に付随した特別支援教育論B(大野呂担当)と中・高等学校免許に付随した特別支援教育論C(高橋先生)とで、映像資料が重複していたとの指摘があったことから、令和6年度後期より今後は共通開講する中で、教材の重複が起きないように手続きを済ませました。また次世代教育学の授業では、昨年度より高評価となっているものの、教員間の認識の連れや連携不足の指摘があり、本年度は次世代教育学の内容を再構築し、教員はもちろんのこと、学生が学ぶ内容や方法・時期について見通しがもてるよう、カリキュラム基盤を再構築中です。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

成績評価については、授業初回にシラバスの内容を反映したオリエンテーション時に、評価規準及び基準を具体的な授業内容(課題への取り組み、活動への取り組み、復習時の内容の深化など)に準えて、総合的に評価するとのことを提示しています。ゴールをイメージしながら学びを進められるよう、これからも継続してこれらの取り組みをしたく考えています。

### 4. 学生へのメッセージ

“今後の授業でも教育臨床からの実際的な学び、次世代教育に必要な知見の獲得ができるよう努力したく考えています。これまでの授業について指摘もありましたが、教材について改善の余地がまだあります。一人でも多くの方に得るものが多くある授業になるよう改善したいと思えます。”□

- 
- 
- 

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
時事英語	13	10	76.9	4.30	0.64	4.30	0.64	4.30	0.78	4.40	0.66
英語科教育法Ⅳ(実践)	33	32	97.0	4.46	0.66	4.15	1.00	4.12	1.02	4.37	0.64
小学校英語科教育法(他学科B)	12	12	100.0	4.50	0.76	4.58	0.64	4.50	0.64	4.58	0.64
教職実践演習	21	18	85.7	4.30	0.67	4.50	0.64	4.50	0.64	4.58	0.64
小学校英語科教育法(他学科A)	48	37	77.1	4.50	0.68	4.54	0.54	4.45	0.64	4.56	0.54
英語教授法特論	12	11	91.7	4.70	0.44	4.45	0.98	3.90	1.50	4.54	0.78

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

中高現場で役立つ実践および理論の習得を目指す。実践面においては、コミュニケーション能力の育成を中心に授業者(学生)の技能、知識の向上および自ら授業を通して体験したものを中高生に適応していくための授業運用力を重点的に行う。理論面においてはSLA研究の中でコミュニカティブ・アプローチに基づく5技能統合型の教授法を主軸とした授業づくりのフレームワークとその評価法の修得を目指す。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

1. 時事英語:基本的にall Englishの授業を心がけたが、外国人留学生の影響もあって多くの学生のコミュニケーション能力の向上につながった考える。
2. 英語科教育法Ⅳ(実践):コミュニカティブ・アプローチの手法を用いた授業の考え方及び授業運用力の向上に努め、ある程度学生は修得したように思われる。
3. 小学校英語科教育法(他学科A,B):小学生を英語を“嫌いにさせない”授業の在り方を中心に、歌、ジェスチャー、クイズを取り入れた授業づくりを試み、ある程度学生はその手法を習得したように思われる。
4. 教職実践演習:より具体的な指導場面を想定してオムニバス形式で実践を行い、学生から多くのアイデアを引き出すことができたように思われる。
5. 英語教授法特論:かなり高度な英語授業づくりにおける理論と実践を扱ったが、即戦力につながる知識・技能がある程度身についたように思われる。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

1. 時事英語:英語の運用力、プレゼンテーション、授業への貢献度を中心にその程度に応じ評価したが、どの学生も取組は良好であった。SまたはA評価は英語によるプレゼンテーションの成果により判断した。
2. 英語科教育法Ⅳ(実践):模擬授業、授業への貢献度、提出物を中心に評価を行ったが、ほとんどの学生は積極的な取り組みであった。SまたはA評価は模擬授業の成果により判断した。
3. 小学校英語科教育法(他学科A,B):模擬授業、授業への貢献度、提出物を中心に評価を行ったが、多くの学生は前向きに授業に取り組んだ。SまたはA評価は模擬授業の成果により判断した。
4. 教職実践演習:模擬授業、発表、提出物、授業への貢献度を中心に評価を行ったが、取組の程度にやや差があった。模擬授業および発表の成果によりS評価を判断した。
5. 英語教授法特論:模擬授業、アイデアの創出、授業への貢献度を中心に評価を行ったが、学生は互いに協力しながら相当程度前向きな取り組みであった。授業内における英語使用頻度およびまとまった英語の産出および模擬授業の成果によりS評価を判断した。

### 4. 学生へのメッセージ

日常的に英語使用場面を増やし、授業づくりの前提である英語コミュニケーション能力の育成に努めてほしい。また、最先端の授業に触れその授業の構成要素を分記し、なぜその授業が成功しているかの批判的、分析的視点を持ってほしい。授業は勢いが大切である。十分な知識と技能を身に付ければ、余裕をもって児童・生徒を授業内外で観察する余裕が生まれ、そのことがより自分の授業に活かされるという好循環につながる。授業外では常に日本および世界の情勢やグローバルな視点から問題意識をもって周りを見てほしい。そして自分の考えを持ち、国内外の人と意見交換できる生活の場を構築していただきたい。今後の日本の英語教育を皆さんに託したいと思います。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
基礎ゼミナールⅡ [通年]教育経営学科	88.5	59	66.7	4.14	1.13	4.19	1.10	4.12	1.32	4.19	1.27
器楽演習Ⅱ	4	4	100.0	5.00	0.00	4.75	0.19	5.00	0.00	4.75	0.19
器楽演習Ⅱ	10	10	100.0	4.60	0.44	4.60	0.44	4.60	0.44	4.70	0.41
器楽演習Ⅰ	15	15	100.0	4.80	0.16	4.80	0.16	4.80	0.16	4.80	0.16
器楽演習Ⅰ	25	25	100.0	4.48	0.41	4.48	0.41	4.40	0.48	4.56	0.25
器楽演習Ⅰ	8	8	100.0	4.88	0.11	4.88	0.11	4.88	0.11	4.88	0.11

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私は授業に対して、なるべくわかりやすく、なるべく楽しい授業をすることを目標にしています。また質問や発言等を気軽にできる空気の授業を目指しています。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

器楽演習1はピアノを弾いたことが無い初心者向けの授業です。15回の授業で簡単な楽譜なら自分で読んで自分で練習できるようになることを目標にしています。多くの学生がこの目標を達成できたことが今回の評価に繋がっているのだと考えています。

器楽演習2は共通教材を全曲弾けるようにすることを目標に授業をしています。これも多くの学生が達成することができたことが評価に繋がっていると思います。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

器楽演習1、2ともに目標としている課題を多くの学生が高いレベルで達成できたので全体的にSA評価を多くつけることができました。中にはまだピアノが苦手、大きな声で歌が歌えない学生もいたため少数ではありましたがB,C評価をつけることになりました。全員がS,A評価をつけることができるレベルにできなかったのは大きな反省です。

### 4. 学生へのメッセージ

皆さんの協力のおかげで楽しく授業ができました。皆さんも楽しく取り組めていたのではないかと思います。協力ありがとうございました。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
特別活動の指導法(中等) [再履修]	42	28	66.7	3.79	1.24	3.64	1.30	3.64	1.30	3.68	1.36
特別活動の指導法(初等) [再履修]	3	3	100.0	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22
特別活動の指導法 [C]	60	57	95.0	4.02	0.79	4.02	0.86	3.79	1.25	3.98	0.96
特別活動の指導法 [B]	127	118	92.9	4.23	0.68	4.24	0.84	4.15	0.82	4.18	0.84
特別活動の指導法 [A]	74	61	82.4	4.38	0.60	4.36	0.69	4.33	0.68	4.38	0.69
総合的な学習の時間の指導法 [C]	111	97	87.4	4.16	0.76	4.14	0.76	4.03	0.94	4.10	0.88
総合的な学習の時間の指導法 [B]	100	94	94.0	4.23	0.92	4.18	0.94	4.16	1.09	4.19	1.07
総合的な学習の時間の指導法 [A]	70	62	88.6	4.18	0.95	4.23	0.95	4.10	1.02	4.23	0.98
ゼミナールⅡ(応用)	5	5	100.0	4.80	0.16	4.80	0.16	4.80	0.16	4.80	0.16
ゼミナールⅠ(基礎)	3	3	100.0	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22



## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

・授業内容に関する理論を理解し、その上で実践力(指導力)を身に付けられるようにする。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

- ・特別活動の指導法 …特に自信をもって指導できる点に力を入れる。
- ・特別活動の指導法【再履修】 …オンデマンドを通して指導法への自信が深められるよう工夫する。
- ・総合的な学習の時間の指導法 …特に自信をもって指導できる点に力を入れる。
- ・ゼミナールⅠ(基礎) …論文を書くための基礎を身に付けられるようにする。
- ・ゼミナールⅡ(応用) …個別に応じた指導を充実する。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

- ・特別活動の指導法 …学習指導要領の内容から焦点化して授業構成を組み立てる。
- ・特別活動の指導法【再履修】 …オンデマンドを通して基礎的な知識の習得を図るようにする。
- ・総合的な学習の時間の指導法 …学習指導要領の内容から焦点化して授業構成を組み立てる。
- ・ゼミナールⅠ(基礎) …論文を書くための基礎を身に付けられるようにする。
- ・ゼミナールⅡ(応用) …個別に応じた指導を充実する。

### 4. 学生へのメッセージ

・自らの経験を想起するとともに、教壇に立って授業をするイメージをもつと理解しやすくなる。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
理科実験の指導法 I (理科教師塾)	14	9	64.3	4.67	0.22	4.89	0.10	4.78	0.17	4.78	0.17
理科教育法 [FE2233組用]	28	22	78.6	4.45	0.52	4.45	0.52	4.55	0.52	4.45	0.52
理科教育法 [FE2232組用]	28	14	50.0	4.50	0.39	4.50	0.39	4.43	0.53	4.50	0.39
理科教育法 [FE2231組用]	32	21	65.6	4.43	0.63	4.38	0.90	4.43	0.91	4.57	0.63

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

自然の事物・現象を五感で捉え、学習が深まる授業をすることは、小学校理科で非常に大切なことです。よく、「実感を伴う理解」という言葉で説明されています。このような授業展開ができる学生であり、将来教壇に立ったときには、小学校理科をリードする教師になっていただきたいと願っています。

講義では、できるだけ毎時間観察・実験があり、自ら課題を見つけ、解決できる力を発揮する体験を経験できるようにしています。そして、児童の視点から授業設計できる指導力を育成するようにしています。自然の理解では、自然の不思議さや巧妙さに気づき、理科を好きになるように。理科教育法では、目指す児童像を育成するための指導法を。そして、理科実験の指導法では、授業をどのように展開したら、楽しく、学習を深めることができるかに焦点を当てています。小学校で指導する理科の内容は多彩です。講義では、一部しか取り扱えません。是非、時間を見つけて理科実験室に来て、観察・実験に挑戦しましょう。

### 2. 全体的な振り返り ※中間アンケートにも言及

講義でよく話すように、観察・実験では、小学生の目線で事物・現象をとらえ、小学生の気持ちで考えを深めて欲しいと願っています。

理科教育法では、全般的に、積極的な姿勢で観察・実験に臨み、児童役として大いに楽しんで成果が上がったと思います。また、教師役として模擬授業を担当した際には、頻繁に実験室に通って納得できるまで予備実験を繰り返し、模擬授業のリハーサルを繰り返している姿が印象的でした。

理科実験の指導法Ⅰでは、和気あいあいとした雰囲気の中で、とことん観察・実験に取り組んでいました。アンケートのどの項目でも高評価が見える通り、熱心に活動に取り組んでいたと思います。

### 3. 科目別の振り返り ※中間アンケートにも言及

○「理科教育法」では、少人数でグループを作り、教材研究、指導案作成、模擬授業リハーサル、板書計画に取り組んだほか、細案・蜜案の制作まで頑張った学生を見ました。その結果、全体としての盛り上がりにつながったように思います。中には、予想通りに授業が進まず、悩んだり、行き詰まったりした時もありましたが、それらをすべて糧として成長されました。今後も、この調子で指導力を付けて欲しいです。

○「理科実験の指導法Ⅰ」では、二人組という少人数で個別化した観察・実験を行い、発表し合い、話し合い、互いに深めていた様子が印象的でした。集中し、興味深く活動することができました。今後、観察・実験をさらに深めるためには、理科教師塾を活用して欲しいと思います。教員採用試験までの間の学習で、観察・実験の意味が分からないときには、是非、実験室で実際に目で確かめて欲しいと思います。

### 4. 学生へのメッセージ

受講した学生は、理科という科目に真摯に向き合い、熱心に活動に取り組み、大きな成果をあげました。しかし、理科という科目は、他の科目とくらべて、観察・実験を伴うというやや高いハードルがあります。上手く実験が進まなければ、また、児童が興味・関心をもって観察・実験に取り組んでくれなければ、良い授業とは言えません。通常の指導法、授業展開ができる力量以外に、導入→めあてづくり→観察・実験→結果発表→まとめという理科に特有の展開ができる力量が必要です。理科実験の指導法Ⅰ、Ⅱを受講できなかった学生は、3、4年生になってもチャンスがあれば受講し、観察・実験のレポーターを広げて欲しいと思います。また、時間を見つけて理科実験室に足を運んで欲しいと願っています。そして、どこにもいない理科を上手に指導できる先生になってください。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
特別支援教育論A	74	74	100.0	4.12	1.11	4.05	1.13	4.00	1.11	4.04	1.07
特別支援教育論A	1	1	100.0	5.00	0.00	4.00	0.00	3.00	0.00	4.00	0.00
特別支援教育 [FE初等]	64	61	95.3	4.48	0.48	4.41	0.54	4.43	0.64	4.43	0.54
次世代教育学 [教育経営学科用]	197.5	166	84.1	4.37	0.78	4.31	0.86	4.23	1.01	4.34	0.85
ゼミナール I (基礎)	5	5	100.0	4.60	0.24	4.20	1.36	4.40	0.64	4.20	1.36

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

教職志望の学生が教員になって学校現場に出たときに必要、かつ、役立つ実践的な力の習得と、特別支援教育に関する授業では、障害についての知識だけでなく、適切な障害理解とともに自己理解を深めていくことを意識して授業を行っている。そのため、自分の学校現場での経験等を踏まえながら、教員として必要な知識・技能などの内容を精選するとともに、できるだけ教育現場の実際を取り上げたり、体験したりすることを通して、学生が自分で感じて、主体的に考え、行動して学ぶことができるようにしたいと考えている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

特別支援教育論Aの履修者が1名だけだった授業の「自信」項目の評価のみ低かったが、この科目と74名履修の特別支援教育論A、ゼミナール I (基礎)のいずれの項目も4以上の評価であった。障害の擬似体験や特別支援学校の寄宿舎を訪問しての障害のある生徒の余暇支援活動などの体験活動、教育現場の様子やそこで学ぶ児童生徒のことがわかる視覚情報などの提示により、できるだけ具体性をもって学べるようにしたことが良かったと思う。こうした取組を引き続き進めたい。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

特別支援教育論Aでは、受講態度・意欲20%、授業レポート・小テスト30%、定期試験50%とし、特別支援教育の基礎・基本の知識・技能の習得の程度を基準に評価した。その結果、不合格はごく僅かで、成績良好は半数以上であった。毎回の授業で小テストを行い、学習した内容の理解定着を図ったことは効果があったと思われる。ゼミナール I (基礎)では、授業態度等(関心・意欲・態度)30%、ゼミレポート・最終レポート、到達度評価(知識・理解)70%で評価した。全体的に授業態度はよく、真面目であり、レポートも満足できるものが提出できており、成績良好であった。各自の研究課題の設定もできており、今後は、各自の研究課題に沿った取り組みの進展を促したい。

### 4. 学生へのメッセージ

特別支援教育についての興味関心を高めたや理解を深めたりするため、座学だけでなく、特別支援学校などの教育現場の取組に触れたり、障害のある児童生徒と関わったりする体験の機会を設けていきます。そうした体験や学びを通して、みなさんに自分の学びたいことや研究したい課題を見つけ、主体的な学びにつなげていってほしいと思っています。いろいろな体験を広げ、学びを積み上げていきましょう。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
次世代教育学 [教育経営学科用]	197.5	166	84.1	4.37	0.78	4.31	0.86	4.23	1.01	4.34	0.85
教育社会学	159	143	89.9	4.26	0.82	4.32	0.72	4.22	0.93	4.23	0.92
教育社会学	154	129	83.8	4.22	0.68	4.21	0.65	4.16	0.81	4.22	0.68
教育社会学	67	56	83.6	4.45	0.50	4.41	0.56	4.41	0.56	4.43	0.57
基礎ゼミナール I [通年]教育経営学科①	112.5	99	88.0	4.33	0.67	4.36	0.57	4.29	0.67	4.39	0.54
ゼミナール II (応用)	7	6	85.7	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナール I (基礎)	3	3	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
キャリアデザイン II [企業]	282	235	83.3	4.41	0.65	4.32	0.81	4.33	0.81	4.34	0.74

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

- ・科目の目的、到達目標(→各回でおこなうこと)を常に意識します。
- ・履修者に教えるのではなく、履修者がわかる／身につくを念頭に置いた授業を用意します。
- ・一方的に情報を伝えるのではなく、思考・作業の時間を多くとります。
- ・評価は公正に、事前に伝え、根拠(事実)を踏まえておこないます。やる気があり、授業に対し誠実に向き合っている学生を高く認めていきます。
- ・授業時間でわからなかったことがあれば、直後、オフィスアワー、クラスルーム等でも質問してもらい、確認後に早めに応答していきます。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

- ・「キャリアデザインⅡ [企業]」、「次世代教育学 [教育経営学科用]」、「基礎ゼミナールⅠ [通年]教育経営学科①」は、科目分担のひとりであり、数値の高さは担当の先生およびほかの先生のご尽力によるところが大きいです。「基礎ゼミナールⅠ」担当クラス(20名)が、積極的に履修して次年度につなげてくれれば嬉しいです。
- ・「ゼミナールⅠ(基礎)」は前期からの信頼関係もあり、帰属意識をもって参加してくれました。「ゼミナールⅡ(応用)」も最終到達目標がゼミ論文・卒業論文の提出と明確になっておりましたので、各自の課題を聴き、個別対応をおこなった結果、主体的に取り組んでくれたのではないかと思います。
- ・「教育社会学」はオンデマンドで3つのクラスルームに分け実施しました。すべて同じ動画、授業手法なのですが、バラつきがみられ、なぜか履修人数が少ないクラスの評価が高くなっています。理由は不明です。好意的な評価もありましたが、一部、視聴確認方法、課題の提出・採点方法に不満の声もありましたので次年度改善いたします。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

- ・「キャリアデザインⅡ [企業]」、「次世代教育学 [教育経営学科用]」、「基礎ゼミナールⅠ [通年]教育経営学科①」は、担当者間で厳格な基準を設けており、担当学生の状況を基準に準拠し、算出し、提出することができました。
- ・「ゼミナールⅠ(基礎)」は各回の各自の貢献を中心に評価しましたが、成果物・提出課題を設けてもよかったのではないかと思います。「ゼミナールⅡ(応用)」はゼミ論文・卒業論文の評価基準が提示されていたので、提出された内容と意欲・態度を総合的に判断し、成果に応じた評価を出すことができました。
- ・「教育社会学」は成績基準を明示して、各回の視聴とリアクション(40%)と最終レポート(60%)を課しておこないましたが、結果的に最終レポートの水準が高く、高評価者が続出してしまいました。到達水準は満たされており妥当な判定ではありますが、次年度はレポート課題の内容を精査し、習熟度を判別できるものに改良していきます。

### 4. 学生へのメッセージ

- ・シラバスは必ず読んでください。履修登録時、第1回目だけではなく、中盤(6-9回)や後半(13-15回)にも読み返し、科目の進捗と各回の目的を押さえておいてください。
- ・授業には集中して参加してください。メモ・ノートをつける習慣をつけましょう。メモ・ノートは振り返りの時に必ず役に立ちます。
- ・課題提出は早めをお願いします。早く出しておけば、期限までに修正して、よりよいものに差替えることもできます。
- ・わからないことは授業終了直後、オフィスアワー、クラスルームでの限定コメント(メール)をして、解決のためのアクションを起こしてください(直前に連絡をいただいても、即座に対応できないときがあります)。授業中にたくさんの「なぜ？」を用意し、その疑問を解決できると知識・技能が着実に増えていきます。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
次世代教育学 [教育経営学科用]	197.5	166	84.1	4.37	0.78	4.31	0.86	4.23	1.01	4.34	0.85
算数科教育法 [他学科B]	24	19	79.2	4.79	0.27	4.74	0.40	4.74	0.40	4.74	0.40
算数科教育法 [他学科A]	53	44	83.0	4.66	0.32	4.64	0.37	4.57	0.38	4.59	0.38
教職実践演習(小学校)	105	83	79.0	4.46	0.66	4.37	0.76	4.42	0.70	4.42	0.68
ゼミナールⅡ(応用)	8	7	87.5	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナールⅠ(基礎)	14	14	100.0	4.93	0.07	4.93	0.07	4.93	0.07	4.93	0.07
キャリアデザインⅡ [教職]	161	143	88.8	4.63	0.36	4.57	0.52	4.51	0.56	4.52	0.57



## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

免許必修科目でもあるとともに教育実習の参加要件科目でもあります。教員として相応しい振る舞いを求めます。教員になって授業をする際に、子どもたちに要求することを、まずは学生自身がきちんとやる。そうでなければ、教員免許をもつに値しません。IPUの授業ルールを遵守しましょう。マナーを守り、他者に不快感をもてせないような振る舞いをしましょう。

この上に立って算数科教育法の授業を行います。たくさんの授業例を紹介し、演習を多く取り入れながら、より実践的に学べるように授業を構成します。受講生が、算数の授業に対する見方・考え方が変容することをめざしています。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

「算数科教育法」・・・概ね満足できているように受け取りました。現状に満足することなく、次年度はさらに改善を図ります。

「ゼミナールⅠⅡ」・・・学校現場を訪問し、算数科を中心に授業を観察し、その後、現職の先生方と授業について協議する場を多く設定しました。これらをもとにゼミ論文を作成するようにしていますが、この方法に対する満足度は高いと評価しました。この方法をさらにブラッシュアップしていきます。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

成績評価の方法について、評価規準、基準を作成し、第1回目の授業で説明しました。評価についての確認書もとっています。テストについても15回目の授業で、再度、評価の仕方を説明し、確認しました。このようにこまめな説明と確認が学生からの評価につながっているとみています。

### 4. 学生へのメッセージ

私が担当している科目は、すべて免許必修科目です。自分が教員になった時のことを想定し、常に、教員の立場に立って、授業に参加してほしいです。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
基礎ゼミナールⅡ [通年]健康科学科	64.5	60	93.0	3.97	0.93	3.93	0.93	3.92	0.91	3.95	0.88
課題研究Ⅱ《通年》	2	2	100.0	4.50	0.25	4.50	0.25	4.50	0.25	4.50	0.25
課題研究Ⅰ《通年》	6	6	100.0	4.83	0.14	4.83	0.14	4.83	0.14	4.83	0.14
運動学特論B	57	55	96.5	4.40	0.35	4.33	0.40	4.09	0.52	4.31	0.40
ゼミナールⅡ(応用)	2	2	100.0	4.50	0.25	4.50	0.25	4.50	0.25	4.50	0.25
ゼミナールⅠ(基礎)	8	8	100.0	4.75	0.19	4.63	0.23	4.63	0.23	4.63	0.23
コンピュータリテラシーⅡ [PH用]	59	56	94.9	3.71	1.28	3.71	1.20	3.64	1.30	3.79	1.13
キャリアデザインⅡ [健康科学科用]	52	48	92.3	4.46	0.54	4.44	0.54	4.44	0.54	4.46	0.54
IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック) [健康科学科]	59	57	96.6	4.19	0.47	4.11	0.55	4.07	0.56	4.26	0.40

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

担当している科目が、柔道整復師の専門科目1つ、ジェネリックスキルズ、コンピュータリテラシー、キャリアデザイン、ゼミナール(FS・CD含む)5つとそれぞれに性質が異なるため、学生への指導や対応も特性に合わせて変えている。柔道整復師の専門科目である運動学特論Bについては、1年次開講の基礎科目になることから、教科書をフルに活用させ、重要な箇所を覚えるまで何度も取り組ませている。一方、ジェネリックスキルズⅡにおいては、学生たちの知的好奇心を喚起し、探求していくことを目指し、自由な発想と意見交換の中で授業展開を行っていった。ゼミナールでは、2年生は課題発見と探求に力を入れ、様々な立場の方からお話をうかがう機会を設けた。他方、3・4年生は国家試験に向けた自主学習の伴走者というスタンスで、共に学び、考える授業運営を目指して取り組んだ。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

運動学特論Bでは毎時間の小テストや学生自身が授業内容をまとめるプリントの作成など、知識の定着に向けた取り組みを行ったこともあり、難易度の高い授業ではあるが満足度が4.31点を得ることができた。キャリアデザインⅡでは昨年度から大きく授業内容を変更し、企業紹介から自ら業界を知り、業界に発信していくという目的でビジネスプランコンテストを行った。能動的な活動であったことが昨年度の満足度4.27点から4.46点へのアップにつながったと考えている。IPUジェネリックスキルズⅡも昨年度の授業評価アンケートの結果を踏まえ、授業展開を変更して実施した。変更点としては、前半は教員が指定したグループでの協働作業、後半では学生たちが希望するグループでの探求活動とした。授業時間外での取り組みも必要だったものの、自らが選択したグループでの活動であったこともあり、昨年度の満足度4.08点から4.26点へと評価がアップした。一方、コンピュータリテラシーでは授業課題と学生のニーズやスキルのギャップが大きかったこともあり、満足度が3.79点と低値となった。この結果を踏まえ授業改善を図っていきたいと考えている。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

運動学特論Bでは、授業時間内に集中して受講するだけでなく、しっかりと復習した学生たちが高く評価されるように意識し、成績評価を行った。難易度は高いものの、国家試験合格を見据えた際に重要な科目となることから、必要な知識が身に付けられているのかを問うために小テストや期末テストを行った。キャリアデザインⅡでは、柔道整復師を取得し、何を主軸に治療をしていきたいのかということについて考えさせた。自らの言葉で相手に伝えることができているのかを評価した。IPUジェネリックスキルズⅡでは、他者との協働しながら、自分たちで課題を設定し、探求していく活動(研究活動)を行った。取り組み姿勢はもちろん、論理的に物事をとらえ、情報を整理し、発信していく力をプレゼンテーションやレポート課題を基に評価した。コンピュータリテラシーⅡでは、中間テストと最終テストを実施し、Excelの技能について評価を行った。

### 4. 学生へのメッセージ

共に学ぶことの楽しさを日々の授業を通して、私自身も実感することができました。「どうしたら良いのだろう」「もっとこうしたら良いのではないか」と前向きに学習に取り組む姿勢は、大学の授業以外の様々な場面で必要にある力だと思います。皆さんにはその力がしっかりと備わっています。是非ともそれぞれの興味・関心を拓き、部活動や研究活動に邁進していきましょう。  
授業評価アンケートとして皆さんからいただいたご指摘を真摯に受け止め、授業の進め方や課題設定を見直しを行っていき、皆さんとともに高いレベルで学び合える授業の展開につとめていきたいと思います。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》	53	51	96.2	4.39	0.79	4.35	0.82	4.29	0.87	4.33	0.81
整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》	67	62	92.5	4.42	0.47	4.39	0.56	4.29	0.66	4.34	0.55
基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)	65	62	95.4	4.32	0.61	4.27	0.65	4.24	0.70	4.26	0.61
基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)	58	57	98.3	4.46	0.39	4.26	0.61	4.02	0.79	4.18	0.57
基礎ゼミナールⅠ [通年]健康科学科	55.5	53	95.5	4.28	0.54	4.15	0.66	3.96	0.68	4.15	0.62
関係法規	57	55	96.5	4.13	0.66	4.05	0.74	3.78	1.01	4.02	0.67
課題研究Ⅱ《通年》	9	9	100.0	3.67	1.56	3.89	0.77	3.67	1.56	3.67	1.56
課題研究Ⅰ《通年》	8	8	100.0	4.25	0.44	4.25	0.44	4.25	0.44	4.25	0.44
ゼミナールⅡ(応用)	9	9	100.0	3.67	1.56	3.67	1.56	3.67	1.56	3.67	1.56
ゼミナールⅠ(基礎)	8	8	100.0	4.13	0.86	4.13	0.86	4.13	0.86	4.38	0.73

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

医療国家資格である柔道整復師は、外傷やスポーツ障害のみならず内科的見地からも患者さんを診る必要がある。これは日本国内における三大死亡の原因に悪性新生物や循環器疾患が多くを占めていることから、運動器外傷を伴った内科疾患患者が存在していることを裏付けている。そのため病院で従事する他の医療資格者との連携も必要になってくるであろうことは容易に想像できる。そのため、基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)にて運動やスポーツによる生理学的観点から軟部組織損傷について実施した。また、整復学実技Ⅳ、Ⅵでは国家試験対策に必須の必修問題対策および臨床現場で必要であろう経験的な考えを取り入れて授業を展開した。国家試験対策と臨床現場からの考えを組み合わせる授業を実施した。健康科学科は、柔道整復師養成を主としているため、国家試験を中心に強い意識を持ってもらい授業を実施している。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

今年度後期に担当したすべての授業満足度(20名以上の授業)が平均4.2を超えていた。柔道整復師になるため、医療系学生として医学に興味を芽生えてきたと思われる。

また、本学着任以来「90分1コマ勝負」という総長のアドバイスを貫く授業展開を意識し、わかりやすい授業を目指している。基本的な考え方として、国家試験対策に向けた指導を行い、友人と勉強したり、いつでもわからないことがあれば教員に聞きに来る、質問に来るように指導している。

今後も精進して授業を実施していきたいと考える。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)に関しては、1年生の履修科目となっており、教科書に記載されている医学用語や専門用語などを説明し、復習を重ねて思い返すような授業展開を実施した。また、再度勉強できるように資料提供をしている。基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)では2年生の履修科目であるが、頭部体幹の疾患に関して徒手検査法の項目が多いため、復習を多く取り入れながら、ポイントを伝え覚えるべき項目を繰り返し行った。両科目において3~4回で小テストを実施し確認作業を行い、評価試験につながるように、90分1コマ勝負を念頭に入れ授業を展開した。来年度も復習をメインに思い返す、思い出すよう授業を実施していきたいと考える。整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)では上肢の骨折・脱臼、整復学実技Ⅵ(下肢固定法Ⅱ)では、下肢の軟部組織損傷について解剖および総論を改めて思い返しなが以前に学んだ知識の確認を行った。

### 4. 学生へのメッセージ

わからない、難しいといった内容がほとんどだと思います。まずはわからないものを1つだけわかるように努力していきましょう。その一つ一つの積み重ねが自分の成長に繋がります。1つずつ進んでいくことが一番の近道だと思います。一つずつの積み重ねがあつて国家試験合格となります。影の努力こそ人を成長させますので、前向きに勉強に取り組んでいきましょう。わからなければ、教員に聞きに来てください。お互いに頑張っていましょう。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)	56	54	96.4	4.56	0.54	4.50	0.55	4.50	0.58	4.54	0.54
臨床柔道整復学Ⅲ(脱臼)	66	62	93.9	4.37	0.59	4.39	0.56	4.39	0.56	4.35	0.58
整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》	53	51	96.2	4.39	0.79	4.35	0.82	4.29	0.87	4.33	0.81
基礎ゼミナールⅠ [通年]健康科学科	55.5	53	95.5	4.28	0.54	4.15	0.66	3.96	0.68	4.15	0.62
課題研究Ⅱ《通年》	9	9	100.0	4.67	0.44	4.67	0.44	4.67	0.44	4.67	0.44
課題研究Ⅰ《通年》	8	8	100.0	4.00	1.00	4.00	1.00	4.00	1.00	4.00	1.00
リハビリテーション医学Ⅱ	50	49	98.0	4.37	0.56	4.33	0.75	4.24	0.80	4.31	0.62
フレッシュマンセミナー [通年]クラス①	304.5	269	88.3	3.78	0.97	3.78	0.91	3.81	0.92	3.86	0.87
ゼミナールⅡ(応用)	10	10	100.0	4.70	0.41	4.70	0.41	4.70	0.41	4.80	0.16
ゼミナールⅠ(基礎)	8	8	100.0	4.63	0.48	4.63	0.48	4.63	0.48	4.63	0.48
アスレティックトレーナー実習Ⅱ	64	60	93.8	4.20	0.83	4.17	0.81	4.12	0.84	4.17	0.77
合計	684	633									
平均			96.6	4.36	0.65	4.33	0.67	4.30	0.69	4.35	0.63
100%換算				87.17		86.64		86.01		86.91	

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

基本、専門科目(資格関連科目)であるため、学習してきた過程は確かに大事ではあるが、目に見える評価を持って確実に水準に達しているか否かを評価することが資格関連科目の重要な責務と考えている。したがって、確実に学習内容を身につけさせるために、毎回学習した範囲の確認問題、授業資料を共有し相互理解を深める。主に臨床系科目を担当しているので、各種領域(運動器領域に主として関わる解剖学、生理学、運動学、整形外科、リハビリテーション医学、内科学等)の内容も含めた取り組みを意識している。現場は教科書通りのことはなく、また同じ怪我、疾病でも全て状態は異なる。したがって、「ある程度」や「何となく」の対応は決してあり得ないことであり、様々な角度から物事を考えなければならない。各学年で進行度合が異なるため、今実施している他の科目の現状を把握した上で総合的に怪我や疾病に対するアプローチを展開している。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

学習の習熟度を深めるため、当日実施した内容の復習として小テスト(確認テスト)の取り組みを実施した。特に資格関連科目を担当しているため、確実な知識の習熟は必須である。

私が担当する臨床系専門科目は、上級生(3, 4年生)学生を対象とする科目で、臨床でも多くみられる疾患＝国家試験でも主となる領域である。したがって、学生の授業評価は臨床実習での気付きや発見、国家試験模擬試験への点数の反映が直結すると認識している。今回の評価より、担当科目が臨床実習での発見や気付き、国家試験模擬試験の点数に寄与できたものと考えられる。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

成績評価をみると、SやAレベルは全体の2-3割程度B、Cは全体の4-5割であった。臨床系科目においては基礎基盤が出来ていないまたは基礎と各論とのつながりが出来ないと評価試験の点数も伸び悩む。結果、残念ながら全体の1-2割がD評価にあった。授業内でも今までの学習内容を口頭や確認問題等で引き出す取り組みをしているが、それでも引き出し切れていない結果にあるので、個人としては本結果をもとに今後の教授方法としては、基礎から応用につなげる学習形態を継続して取り組んでいきたいと考える。一方履修学生においては振り返りをする学習習慣の獲得を身に付け学習に励んで頂きたいと思う。また、C以上の学生も国家試験をはじめ医療現場では学習した幅広い知識から疾病や外傷を絞り込むため、単位が取れたことに満足せず継続的な学習に取り組むことを推奨する。

### 4. 学生へのメッセージ

資格関連科目は、目に見える形で評価されます。ただ、漠然に授業を受けているだけでは、その科目も、その先の科目も思うような学習の理解につながりません。結果、健康科学科であれば国家試験の合格は遠くなります。何の、誰のための学習(講義、実技)であるかを考え取り組んでください。また、現場は決まった疾患や患者様等が来るわけではありません。その場合、如何にその状態の特徴を見抜き、先を見据えた処置ができるか(または処置をして良いのか(救急搬送の必要性)も含め)といった応用力が必要となります。そのためには基礎(解剖学、生理学、運動学、柔道整復学(総論)他)が大事になりますので、3年は1, 2年と同時期に学習している内容を、4年は今まで学習してきたことを総合的に確認し講義、実技に取り組んで頂きたいと思います。

担当: 教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)	63	60	95.2	4.35	0.39	4.32	0.42	4.03	0.57	4.20	0.39
整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》	67	62	92.5	4.42	0.47	4.39	0.56	4.29	0.66	4.34	0.55
公衆衛生学Ⅱ	51	50	98.0	4.40	0.64	4.48	0.57	4.44	0.53	4.48	0.53
基礎ゼミナールⅠ [通年]健康科学科	55.5	53	95.5	4.28	0.54	4.15	0.66	3.96	0.68	4.15	0.62
課題研究Ⅱ《通年》	9	9	100.0	4.56	0.69	4.56	0.69	4.56	0.69	4.56	0.69
課題研究Ⅰ《通年》	7	7	100.0	4.43	0.53	4.43	0.53	4.43	0.53	4.43	0.53
ゼミナールⅡ(応用)	9	9	100.0	4.56	0.69	4.44	1.14	4.44	1.14	4.44	1.14
ゼミナールⅠ(基礎)	8	8	100.0	4.50	0.50	4.50	0.50	4.50	0.50	4.50	0.50



## 2. 授業のリフレクション

<b>1. 私の授業哲学(または授業方針)</b>
国家試験に関係のある科目を担当しているため、教科書を使用し授業を行い国家試験に繋がるように心掛けている。また、他の科目と繋がるような授業を行うようにも心掛けて記憶の定着を図っている。 アクティブラーニングの要素も取り入れるように心掛け、学生間での話し合いを行う時間を作り、記憶の定着を図るようにしている。
<b>2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して</b>
臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)…柔道整復師国家試験でも特に出題数が多い範囲で、非常に重要な科目である。4点以上の評価を頂いたが、もっとアクティブラーニングを取り入れて記憶の定着を図りたい。  整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)…国家試験必修問題の出題項目を実技を用いて学習し、国家試験問題に対応できるような授業を行った。以上のことを学生に何度も伝え、重要性を伝え続けた。4.34の満足度であったため学生のニーズに合う実技授業ができたのではないかと思われる。
<b>3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して</b>
臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)、公衆衛生学Ⅱ…国家試験に多く出題される範囲であることからそれなりの難易度の授業になっていると思われる。従って欠席が多い学生は成績が低くなる傾向になる。しっかり授業を聞いてわからないところはその日に解決できるように対策して欲しい。何かあったら聞きに気軽に聞いてくれたら嬉しいです。  整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)…整復動作や固定法などは繰り返しやるのが大切だが、基本を守らないで行っている人がいるので、授業内で確認してくれると成績も取れると思われる。
<b>4. 学生へのメッセージ</b>
興味が湧くような楽しい授業を行いたいと考えています。毎年進化していけるように努めて参りますので、皆さんも積極的に授業に参加してください。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
臨床柔道整復学演習Ⅲ	55	54	98.2	4.52	0.51	4.52	0.51	4.48	0.55	4.46	0.62
病理学	11	9	81.8	4.11	0.99	4.11	0.99	4.11	0.99	4.11	0.99
整形外科Ⅱ	60	58	96.7	4.40	0.58	4.40	0.65	4.26	0.81	4.36	0.64
課題研究Ⅱ《通年》	8	6	75.0	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22
課題研究Ⅰ《通年》	7	7	100.0	4.29	0.49	4.29	0.49	4.29	0.49	4.29	0.49
運動器の解剖と機能Ⅱ	70	59	84.3	4.27	0.64	4.31	0.55	4.24	0.72	4.36	0.60
リハビリテーション医学Ⅱ	50	49	98.0	4.37	0.56	4.33	0.75	4.24	0.80	4.31	0.62
ゼミナールⅡ(応用)	7	6	85.7	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22	4.67	0.22
ゼミナールⅠ(基礎)	7	7	100.0	4.29	0.49	4.29	0.49	4.14	0.69	4.29	0.49

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

担当授業において、「何ができるようになったのか」を重要視し授業展開を図っている。確実な学習成果の修得を目指し、定期的に理解度を小テストで確認しながら、授業進度を調節している。また、小テストの結果は各個人にフィードバックしている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

能動的に学習し授業に向き合えるようになってもらいたいと考えるために、一方的な授業ではなく、双方向型やグループ学習の授業展開を図り、飽きない授業構成を常に考えているつもりである。成長していく自分を実感できるように努める。多くの受講者が「当該授業に満足あるいはまあまあ満足」と回答してくれたことに関しては非常に喜ばしく思う。

基礎的な基礎柔道整復学、解剖学、生理学の知識の修得に加え、より臨床的な内容についても理解ができたと思う。

また、授業熱意についても多くの学生が認めてくれた事についても同様には嬉しく思う。

反省点として、双方向性の授業内容に欠けるところがあるので、来年度の改善点とする。中間アンケートを参考に後半の講義を改善し実施した。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

柔道整復解剖生理学では、人体解剖の知識が必要な部分はスライドを多用し、要点・ポイントの整理には板書中心の授業を展開することにより理解度を深めるよう心がけた。

ゼミⅡでは資格試験および定期試験対策として、演習問題を適宜取り入れ、教育用の視聴覚教材製品版を使い確実な知識を修得させるよう心がけた。

卒業後、医療現場に就いた場合において、過不足の無いように詳細に授業を行った。

整復学実技Ⅰでは国家試験に出題される必修部分について焦点をあて、確実に理論を理解した上で実技に進めるように学生の修得度合いを図りながら進化した。

### 4. 学生へのメッセージ

柔道整復師が軟部組織損傷を扱う割合は年々増しており、今や業務の主軸をなすものになっている。各軟部組織損傷に対する正確な知識の修得の必要性は今後増々重要であり、その為には人体の構造と機能を十分に理解しなければ施術に向き合えない。よって、解剖学、生理学の基礎的専門知識を疎かにしてはいけない。また、柔道整復師が扱える業務範囲外の外傷についても疎かにしてはならず、今後において正確な知識の修得が必要である。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
体づくり運動 [PP男子用]	84	77	91.7	4.44	0.58	4.52	0.46	4.45	0.59	4.47	0.48
体づくり運動 [PP男子用]	69	60	87.0	4.68	0.28	4.63	0.33	4.63	0.37	4.65	0.33
体づくり運動 [PP女子用]	54	52	96.3	4.19	0.73	4.21	0.78	4.23	0.83	4.17	0.84
生涯体育教育総論	10	9	90.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
基礎ゼミナールⅡ [通年]体育学科①	169	143	84.6	4.13	0.73	4.10	0.77	4.11	0.77	4.20	0.67
フィットネスプログラム論	116	97	83.6	4.04	1.05	4.00	1.05	3.92	1.15	3.96	1.13
ゼミナールⅡ(応用)	12	12	100.0	4.17	0.81	4.17	0.81	4.17	0.81	4.33	0.72
ゼミナールⅠ(基礎)	12	12	100.0	4.75	0.19	4.83	0.14	4.67	0.39	4.83	0.14

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

社会人として必要である、「コミュニケーション力」: 他人と意思疎通できる、「コラボレーション力」: 他人と協力できる、「クリティカルシンキング」: 与えられた答えを鵜呑みにするのではなく、自分の頭で考えることができる、「クリエイティビティ」: 創造力を発揮することができる、これらの能力を中心として、社会人としての素養や主体性、現場で即戦力となる能力を養うことを目標として授業を行っている。また座学、実技共に、インタラクティブで、楽しい授業になるような工夫を常に心掛けている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

授業評価について

座学、実技共に、学生と教員の双方向からの授業展開を心掛けているが、不十分な点もあったと考える。特に座学においては、学生のニーズを拾いきれていない部分もあったため、学生からの情報収集の方法を工夫、改善していきたいと考える。実技では学生の体験や経験が重要であり、可能な限り学生が主体的に実施できたと考える。さらにインプットされた知識やスキルをアウトプットできる環境を構築、提供して、学生が学んだ内容に自信が持てるようにしていきたいと考える。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

成績評価について

評価については、座学、実技共に、出席状況を重要視して、各科目により、小テスト、最終テスト、課題レポートを組み合わせることで評価を行ったが、適切に評価できたと考える。しかし、座学における小テスト等のフィードバックについては、学生の授業及び内容の理解向上に繋がる工夫がさらに必要であったと考える。

### 4. 学生へのメッセージ

挨拶、授業への出席、期限内の課題提出、報告・連絡・相談等、基本的なことを確実に行いましょう。そのうえで、主体性や個性を発揮して、自分の考えを積極的に発信していけば評価を得ることができると思います。さらにトライ&エラーで経験を積極的に積んでいくことも重要だと考えます。「楽しく」たくさんの知識やスキル、経験等を得ることができる授業を教員と学生の双方向から考え創っていきたくて考えています。お互いに学び、高め合っていきましょう。

担当: 教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
体育理論	573	476	83.1	4.21	0.68	4.20	0.69	4.11	0.81	4.22	0.65
基礎ゼミナールⅡ [通年]体育学科①	169	143	84.6	4.13	0.73	4.10	0.77	4.11	0.77	4.20	0.67
ゼミナールⅡ(応用)	8	3	37.5	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
ゼミナールⅠ(基礎)	13	13	100.0	4.77	0.18	4.77	0.18	4.69	0.21	4.77	0.18
スポーツのリスクマネジメント	170	142	83.5	4.40	0.61	4.35	0.69	4.37	0.68	4.39	0.65
キャリアマネジメントⅢ [教員]	16	16	100.0	4.81	0.15	4.81	0.15	4.69	0.34	4.81	0.15
キャリアマネジメントⅠ [教員]	90	75	83.3	4.44	0.46	4.39	0.53	4.27	0.73	4.33	0.62
キャリアデザインⅡ [企業]	282	235	83.3	4.41	0.65	4.32	0.81	4.33	0.81	4.34	0.74

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私が授業を組み立てていくうえで最も意識していることは、「新たな発見・学び」です。当たり前のことかもしれませんが、「新たな発見・学び」は大学の授業で最も重要なことだと思いますし、学生の興味関心を引き出させるうえでも有効であると考えています。また、本学の重要なテーマである「非認知能力の育成」にも注力しました。スライドを用いた知識の提供のみではなく、グループワークを取り入れて積極的なコミュニケーションを促し、学生に考えさせることを意識しました。これからも「新たな発見・学び」を軸にした授業づくりを行い、そのなかで「非認知能力の育成」に寄与できればと思います。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

いずれの科目においても、注意、関連、自信、満足の4項目について高い値を実現できたと考えます。特に、スポーツのリスクマネジメントと体育理論は大人数かつオンデマンドと難しい条件の科目でしたが、それぞれの先生方の専門を持ち寄って授業を構成したことにより、内容の専門性と各回の新鮮さが担保され、高い評価を得られたと考えます。また、ゼミナールについては、応用、基礎ともに卒業研究に向けた内容を展開しました。私個人の研究領域に縛り付けるのではなく、心理学という幅広い領域の中で各自の興味に寄り添った研究を実施させた結果、本評価に反映されたものと考えます。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

成績評価の基準については、90点以上=S、80~89=A、70~79=B、60~69=B、~59=Dといたしました。各授業で適切な成績評価を実施できたと考えます。しかし、ゼミナールではS評価が多くなる傾向にあるため、課題の難易度を高くし、真に優秀な学生にSを与えられるように評価のグラデーションを調整できればと考えます。

### 4. 学生へのメッセージ

大学4年間は本当にあっという間です。時間は有限ですが、使い方は無限です。無意味な時間もたまには必要ですが、ぜひ、大学4年間でしかできない経験や学びに注力してほしいと思います。また、本学が「非認知能力」の育成に力を入れていることはご存じかと思います。非認知能力は確実に社会で求められる能力です。非認知能力育成やジェネリックスキルズはもちろんですが、日々の授業や部活、バイト、日常生活の中でもぜひ意識して過ごしてください。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
検査・測定と評価Ⅱ	29	24	82.8	4.42	0.66	4.38	0.65	4.38	0.57	4.42	0.49
基礎ゼミナールⅠ [通年]体育学科②	143.5	105	73.2	4.21	0.70	4.18	0.64	4.15	0.68	4.25	0.59
トレーニング演習Ⅱ(応用)	36	31	86.1	4.74	0.26	4.74	0.26	4.65	0.49	4.77	0.24
トレーニング演習Ⅱ(応用)	28	22	78.6	4.50	0.52	4.50	0.52	4.50	0.52	4.55	0.52
ゼミナールⅡ(応用)	13	13	100.0	4.85	0.13	4.77	0.18	4.77	0.18	4.77	0.18
ゼミナールⅠ(基礎)	9	9	100.0	4.67	0.44	4.67	0.44	4.56	0.47	4.56	0.47



## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

トレーニング演習、検査測定と評価などの専門の科目授業では、まずは専門知識のインプットを行い、その後、トレーニング指導実践やプログラミングデザイン、動作分析・評価を実際に行うアウトプット型を通して、専門的な指導を経験、身につけていく方針で行った。1年生の基礎ゼミナールでは、将来・社会に必要なベーシックスキルの授業が主でしたが、具体例を出して説明を行うようにしてきた。3, 4年生のゼミナール・卒業研究では主に自分またはグループでの研究発表を主に行い、自身の専門性を高めていってほしい。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

トレーニング演習Ⅱ(応用)は今年も平均4.62点と高い点数を維持し、これまでの最高の点数となった。検査測定と評価Ⅱにおいても平均4.4点と高い水準を保てた。専門科目であるため、満足度だけでなく、自信が高まるように学習成果などがわかるように工夫を進めていきたい。3, 4年生のゼミナール(Ⅰ、Ⅱ)では、満足度は高くできた。また、今年は4年生のゼミ論の質(研究レベル)も向上した。3年生の来年度(ゼミナールⅡ)の自信を高めていきたい。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

検査測定と評価Ⅱにおいては、受講態度 30%、課題(予習・復習課題, 最終レポート)70%にて行い、課題に対して十分な学習が認められ、独自性のあるものがSとなり、以降、課題の質の低下や課題未提出のものが減点対象となり、各成績に配当された。トレーニング演習Ⅱにおいては、受講態度50%、課題(指導実践・振り返りレポート含む)50%にて行い、特に指導実践・振り返りレポートにおいて、外部にて指導しても通ずると認められるものがSとなり、以降、課題の質の低下や課題未提出のものが減点対象となり、各成績に配当された。ゼミナールⅡでは、授業への取組50%、課題 50%にて行い、ゼミ論文提出は必須とし、学会発表できるレベルをSとして、以降、質の低下で減点対象とした。ゼミナールⅠでは、ゼミナールⅡと評価方法は同じで、特に授業における質問や貢献度とともに、ゼミ論文に向けての準備が十分に達した場合Sとして評価を行った。

### 4. 学生へのメッセージ

予習、復習が非常に多く、大変だったと思いますが、アクティブラーニングの方が学習が身に付くと思いますので、引き続き頑張っていってほしい。最後に、大切なことは授業を楽しむことです。今後もぜひ、様々な授業を楽しみながら参加してみてください。

担当: 教務課/IR調査・分析委員会

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
基礎ゼミナールⅡ [通年]体育学科②	136	100	73.5	4.32	0.90	4.33	0.90	4.28	0.94	4.32	0.98
ゼミナールⅡ(応用)	13	13	100.0	3.85	1.36	3.69	1.75	3.69	1.91	3.77	1.87
ゼミナールⅠ(基礎)	7	7	100.0	4.29	0.78	4.29	0.78	4.29	0.78	4.29	0.78
スポーツ相談の実際	40	37	92.5	4.43	0.62	4.35	0.82	4.38	0.72	4.41	0.73
スポーツのリスクマネジメント	170	142	83.5	4.40	0.61	4.35	0.69	4.37	0.68	4.39	0.65

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私が授業で大切にしていることは、学生が自ら意欲的に学ぶ姿勢を導き出せるようにすることです。この授業は何のためにやるのか、目的意識を持たせることを大事にしています。また、一方的に講義をするのではなく、意見交換ができるようにディスカッションや発表の場面を作り、お互いが刺激し合い、相乗効果が生まれるようにすることを心がけています。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

「ゼミナールⅡ」は、ゼミ論文について最後までしっかりと指導しましたが、論文作成が重荷になってしまったのではないかと考えられます。早くから段階的にステップを踏んで進められるように指導をしたいと思います。  
「スポーツ相談の実際」では、グループ毎でロールプレイ等の体験を多く取り入れ、実践力を向上させることができたため、評価の良さにつながったのではないかと思います。  
今後、さらに、学生が興味を引く話題の提供や充実した内容を展開できるように授業研究をしていきたいと思っています。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

各科目とも多くの学生が授業到達目標を達成し、好成績が取れたと思います。毎回の授業課題では内容を充実させて提出するように指導しています。これからも1回1回の授業について、主体的に取り組む姿勢を促していきたいと思っています。

### 4. 学生へのメッセージ

学生の皆さんのためになる授業ができるように、これからも努力します。授業ではGoogle クラウドから意見や感想、要望等をお聞きますので遠慮なく記入してください。皆さんの声が励みにもなり、反省にもなります。よろしくお願いいたします。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP2年生用]	39	30	76.9	4.37	0.43	4.33	0.49	4.23	0.78	4.33	0.49
基礎ゼミナールⅡ [通年]体育学科②	136	100	73.5	4.32	0.90	4.33	0.90	4.28	0.94	4.32	0.98
器械運動Ⅰ(基礎) [PP男子+他学科男子]	36	28	77.8	4.46	0.32	4.32	0.50	4.36	0.66	4.46	0.53
器械運動Ⅰ(基礎) [PP男子+他学科男子]	29	18	62.1	4.33	0.78	4.39	0.68	4.28	0.87	4.28	0.87
器械運動Ⅰ(基礎) [PP男子+他学科男子]	9	5	55.6	4.20	0.96	4.00	0.80	4.20	0.96	4.20	0.96
器械運動Ⅰ(基礎) [PP男子]	13	11	84.6	4.64	0.41	4.64	0.41	4.64	0.41	4.64	0.41
ゼミナールⅡ(応用)	4	4	100.0	4.75	0.19	5.00	0.00	4.75	0.19	5.00	0.00
ゼミナールⅠ(基礎)	15	15	100.0	4.53	0.38	4.53	0.38	4.47	0.52	4.60	0.37
スポーツのリスクマネジメント	170	142	83.5	4.40	0.61	4.35	0.69	4.37	0.68	4.39	0.65
キャリアマネジメントⅢ [教員]	16	16	100.0	4.81	0.15	4.81	0.15	4.69	0.34	4.81	0.15
キャリアディベロップメント [通年]クラス②	327.5	255	77.9	3.87	1.32	3.86	1.28	3.84	1.35	3.82	1.36

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

社会人に必要な能力を身に付けるために各科目で「自分を分析する」「どうやったらできるのか」をテーマに授業を展開している。一方的な授業展開ではなく、学生の実態を捉えることに努め、「どうやったらこの授業内容、ねらいが伝わるだろう。」と自問して常に効果的な授業方法を模索している。自分のスタイルを確立させながらも、学習内容を全員が納得・理解できるような授業展開ができるように工夫しながら行うよう心掛けている。

今年度はとくに「学生自ら学ぶ」をテーマに掲げ、受け身にならないための授業づくりを目指している。理由として自分が興味を持ってないとその学習は定着しないためである。興味を持てるよう、難しく感じてしまう内容でも多角的な視点から説明をして、面白いと思った角度から考える時間を設けるようにしている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

今年度は初めて担当する科目もあり、四苦八苦した。特に保健体育科指導法Ⅲについては専門分野とはかけ離れた内容であったことから、自身が1から学び、講義を展開していったことから臨機応変ができなかった。しかしながら、もともと自分の授業方法である「冒頭に学習の流れを提示」「現段階の学習内容」は欠かさずに行い、学生が今何を学んでいるのか明確にすることはできた結果が評価につながったと考える。結果的に満足値は4.37という評価であり、おおむね満足した科目であったのではないかと考える。しかしながら、この科目は教員免許に必須な科目であるため、学生もついていけないといけないという気持ちもあったことも考えるともっと分かりやすく明確な内容で講義を行う必要があると考える。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

成績評価:A

ゼミナールに関しては4年次は卒業研究完成に向かって突き進み、3年次はグループワークを通じたコミュニティの形成から研究の概要に触れる活動に重きを置いた。その結果、4年生は卒業論文を提出することができ、論文に必要な文章校正力などの研究外の能力を高め、且つ自分のオリジナル研究を遂行することができ、大きな自信につながったと考える。また3年生においては卒業研究に向けて意識づけを行うことができたと考える。保健体育科指導法ⅢについてはⅡと同様に今年度初めて受け持つ科目となり、見通しが持ちにくい上、学生の実態も把握しづらいことがあり学習の一貫性がなかったと考える。来年度はより分かりやすく、かつ学習知識がうまく積み重なるような説明や授業形態を実施するべきだと考える。

### 4. 学生へのメッセージ

学生は学びを受けるという受け身で良い立場でありながら自らすすんで行動しないといけない準社会人の立場という比較的立ち回りが難しい立ち位置にいると思います。両方を器用にできる人はなかなかいないのではないのでしょうか。ですがこう考えてみてください「毎日86,400円使えるとしたら毎日何円使うか」。きっとそのお金を全部使おうと思って、趣味やゲームにお金をかける人がいれば、本を買ったり、旅行したり、はたまた自分磨きをする人もいるでしょう。おそらく「お金を使わない」人はいないと思います。この86,400円というのは「1秒を1円として1日の時間(秒)」です。有名な例え話です。何もしないのはもったいないですよ。つまり、受け身でいい時は必然的にその時間にお金を使いますが、それ以外の時は積極的に何かに時間(お金)を使うことが、1日を充実させるのではないかと思います。もちろん無駄遣いをしてはダメというわけではなく「何にも使わない」ことがないように貴重な大学での時間を過ごしてもらいたいなと思います。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
生理学 [PP用]	340	260	76.5	4.24	0.64	4.24	0.57	4.18	0.65	4.26	0.55
基礎ゼミナール I [通年]体育学科①	141.5	111	78.4	4.32	0.50	4.34	0.48	4.23	0.61	4.40	0.47
運動生理学実習	8.5	5	58.8	5.00	0.00	5.00	0.00	4.80	0.16	4.80	0.16
バレーボール I (基礎) [他学科+PP3年生以上]	36	30	83.3	4.53	0.38	4.57	0.38	4.57	0.38	4.57	0.38
バレーボール I (基礎) [PP用]	44	37	84.1	4.51	0.47	4.43	0.52	4.30	0.91	4.43	0.52
バレーボール I (基礎) [PP用]	40	31	77.5	4.55	0.51	4.55	0.31	4.55	0.38	4.58	0.37
ゼミナール II (応用)	14	10	71.4	4.60	0.44	4.50	0.45	4.40	0.44	4.50	0.45
ゼミナール I (基礎)	14	14	100.0	4.79	0.31	4.57	0.53	4.64	0.52	4.57	0.82
スポーツのリスクマネジメント	170	142	83.5	4.40	0.61	4.35	0.69	4.37	0.68	4.39	0.65

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私の授業を通じて、受講した学生にとってプラスになることを一つでも多く伝えること。  
授業では学生にとって、わかりやすい授業を心がけ、具体的な事例などを踏まえながら授業を展開することを心がけている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

学生の評価を拝見すると、全体的な評価は全ての項目で概ね良いものであった。  
ただし、全体的にみると昨年度よりも評価が下がった項目が多くあったように感じている。特にオンデマンド科目については単位未修得者が多かったことから、問題点を検証する必要がある。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

「生理学」の満足度については昨年度よりも0.2ポイント上昇した。これは前年度から授業づくりを見直した結果と言える。「基礎ゼミナールⅠ」については、始めて1年生クラスを担当したが、大学生となった1年生の学生に対し一人ひとりとコミュニケーションを綿密に摂った結果、高い満足度を得ることができた。バレーボールⅠの3クラスについても高い評価を得ることができたが、さらに良い授業づくりに励みたい。

### 4. 学生へのメッセージ

教員である私自身が成長を忘れずに取り組む姿勢を見せることが、何よりの教育であると思っています。  
学生と主に新しいことに挑戦する教員でありたいと思っています。一緒に頑張りましょう。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
教職実践演習(中学校・高等学校)	124	94	75.8	4.50	0.55	4.38	0.62	4.41	0.56	4.45	0.52
運動生理学実習	8.5	5	58.8	5.00	0.00	5.00	0.00	4.80	0.16	4.80	0.16
運動学	349	269	77.1	4.28	0.57	4.23	0.68	4.19	0.65	4.24	0.57
ゼミナールⅡ(応用)	17	12	70.6	4.83	0.31	4.83	0.31	4.83	0.31	4.75	0.35
ゼミナールⅠ(基礎)	15	11	73.3	4.82	0.33	4.82	0.33	4.82	0.33	4.82	0.33
スポーツデータサイエンス入門	95	75	78.9	4.31	0.48	4.27	0.49	4.24	0.64	4.28	0.52
スポーツアナリティクス実習	11	8	72.7	4.50	0.50	4.50	0.50	4.38	0.73	4.38	0.73
コンピュータリテラシーⅡ [PP2363組用]	52	46	88.5	4.20	0.72	4.07	1.02	4.07	0.84	4.07	1.15
			平均	4.55		4.51		4.47		4.47	
			標準偏差	0.30		0.34		0.31		0.29	



## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

体育・スポーツを楽しむことをベースに、ICTスキル向上を目指した授業を展開し、日本に10しかない体育学部体育学科の価値を高める。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

項目4(満足)の平均を算出すると、 $4.47 \pm 0.29$ であり、問題ないレベルであった。  
運動学はオンデマンドであるが細かく授業内容を分け、実施することで、授業評価も高かったと考える。  
関連授業をみると、コンピュータリテラシーⅡ→スポーツデータサイエンス入門→スポーツアナリティクス実習と具体的な内容になると授業評価が上がる傾向が見られた。文部科学省が推奨する数理・データサイエンス・AIリテラシーも学ぶ必要があり、ICTリテラシー関連科目の内容を精査していくべきと考えている。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

成績評価については、シラバスに記載している内容を初回の授業で説明を行っている。更に成績は、毎回の授業における意見交換や小テスト、授業後レポートの合計で計算しているため、毎回の授業を大事にしないと評価が上がらないようになっている。ぜひ、毎回の授業を大切にしたい。

### 4. 学生へのメッセージ

世の中の求められるリテラシーは時代によって変化している。そのことは受動的な授業を受けることでは、ついていけない。是非主体的に学ぶ姿勢を持って授業に望んで欲しい。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
保健体育科指導法 I (基礎) [C]	84	60	71.4	4.53	0.55	4.53	0.45	4.52	0.52	4.58	0.44
保健体育科指導法 I (基礎) [B]	124	94	75.8	4.50	0.46	4.44	0.48	4.46	0.40	4.47	0.42
保健体育科指導法 I (基礎) [A]	93	63	67.7	4.52	0.54	4.51	0.50	4.46	0.53	4.51	0.50
体育実技の指導法	8	8	100.0	4.50	0.50	4.63	0.48	4.50	0.50	4.63	0.48
教職入門 [FE初等]	101	90	89.1	4.64	0.36	4.59	0.44	4.66	0.36	4.63	0.43
教職入門 [FE英語,PP2322組用]	120	92	76.7	4.45	0.46	4.41	0.48	4.32	0.50	4.45	0.53
教職入門 [FE英語,PP2321組用]	105	78	74.3	4.49	0.40	4.46	0.45	4.42	0.53	4.45	0.45
教職入門 [FC]	46	43	93.5	4.44	0.39	4.47	0.39	4.37	0.42	4.49	0.39

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私の教育哲学は、出来なかったことが出来るようになる。知らなかったことがわかる。特に教員養成に携わる教職課程の指導では、「実践と理論の融合」を第一に掲げ、教員生活42年の経験から考える「不易流行」良き教育を引き継ぎ、次代と共に新たな教育を考えれる教員づくりを私の教育方針としています。学生達はまだまだ未知の者達です。それを前提に学生達の「未知数減らし既知数を増やす」強いてはそれが、学生達の社会化に繋がると考え、経験を下に、その経験を理論構築し教授することを念頭に授業を行っています。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

中・高保健体育科教師、中・高英語科教師志望と言う明確な目的をもった学生が中心だっただけに、教科書などを使った学習以外の現場で起こっていることや社会で問題になっている教育事情などをタイムリーに盛り込み、また実際に現場で発生している事案等を基に、模擬職員会議や生徒指導部会を行ったり、母校の校長となったことを想定し、学校教育目標から新入生、保護者へ向けての式辞なども作成するなど、興味、関心をもつ授業の工夫を行っていました。またその効果は講義中の真剣なまなざしや笑顔が意欲の高まりとなり、講義の回を重ねるごとに自分たちの目的とする「教師」に対する意識、意欲が向上してきました。これは私への授業評価と言うよりも君達、学生たちの頑張りや意識の変化、向上度の現れたのだと思います。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

教師を志望する、学生のニーズや能力、理解度なども事前に調査、考慮の上、授業計画を立て進めました。今特に問題視されている、中教審の答申、「教員の資質向上」においては、すべての項において、関連性を以て指導案を立てました。将来我々の後輩として教育実習から教壇に立つ学生たちに「教師」として「覚悟・自覚・責任・打たれ強さ」から教師と言う職業の厳しさと遣り甲斐、楽しさ、喜びも経験から伝える工夫をしました。その結果が皆さんの成績として評価をしました。授業満足度が4.5も頂き、当初目標であった3.5以上の満足度は達成出来たように感じます。次年度は今年度の形により一層の現場での新しき内容を取り入れ、時代に即した事柄を提供、次代に適した授業をしていきたいと考えており、是非今後もみなさんの意見を頂戴しより一層の授業を作り上げていきたいと思っています。

### 4. 学生へのメッセージ

大学と言うところで大教室、大人数、驚いたことと思います。授業を受けるといった意味では決してベストな環境ではなかったにもかかわらず私語、居眠り、携帯遊びなど無く、一生懸命学習に真剣に取り組んでくれた君たちに心より感謝をします。また、皆さんのたくさんの温かい応援メッセージは先生の励みとなり、先生の胸にしっかりと刻み込まれています。これからの日本を担う大切な子どもたちの為に、先生と同じ教壇に立つことを心より願っています。教員の資質向上は普段の生活にあり！教師という仕事は本当にいいぞ！一緒に教壇に立とう！君たちの笑顔に感謝 合掌 百拝！

担当:教務課/IR調査・分析委員会



## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

3年生後期からの立志会活動と連動するようにしています。筆記試験対策だけではなく、面接で評価してもらえる受験生となるためにも、授業態度を含めたことを細かく

注意します。最初は違和感を感じる人もいますが、4年生に近づくにつれて理解できるようになりますので何のために言われているかを考えてもらえればと思います。

4年間で1番勉強したと胸張って言える1年間にしていきたいと思います。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

相対的に各項目とも評価をいただきありがとうございます。後期からは進路に向けて各自が月を追うごとに真剣さが増してきているので、そういう評価をいただけたと考えて

います。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

【キャリアマネジメントⅢ】立志会の授業と連動する科目のため、月を追うごとに履修学生の真剣度が高まってきた。

【キャリアデザインⅡ】志望が混在しているため、毎年試行錯誤しています。採用担当者の講演、適性検査など体験などは関心を持って受講してもらえたと思います。

### 4. 学生へのメッセージ

4年生になった現在採用試験真っ只中ですね、3年生後期から積み上げてきたものを発揮する場面が続きます。実際に思うようにいかないことがあっても、諦めずに次に向けてチャレンジしてください。その中から答えとなることが見つかるはずですよ。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
保健体育科指導法Ⅳ(実践)	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP2年生用]	64	53	82.8	4.58	0.43	4.55	0.51	4.38	0.73	4.55	0.51
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP2年生用]	41	29	70.7	4.72	0.34	4.62	0.44	4.48	0.53	4.52	0.53
体育科教育法 [他学科]	41	39	95.1	4.59	0.29	4.56	0.35	4.54	0.40	4.56	0.35
教職実践演習(中学校・高等学校)	124	94	75.8	4.50	0.55	4.38	0.62	4.41	0.56	4.45	0.52
基礎ゼミナールⅡ [通年]体育学科②	136	100	73.5	4.32	0.90	4.33	0.90	4.28	0.94	4.32	0.98
バレーボールⅠ(基礎) [他学科+PP3年以上用]	39	33	84.6	4.88	0.11	4.79	0.35	4.79	0.17	4.76	0.30
バレーボールⅠ(基礎) [PP用]	41	33	80.5	4.39	0.42	4.33	0.40	4.36	0.35	4.30	0.70
ゼミナールⅡ(応用)	13	11	84.6	4.73	0.38	4.73	0.38	4.73	0.38	4.82	0.33
ゼミナールⅠ(基礎)	11	6	54.5	4.83	0.14	4.83	0.14	5.00	0.00	4.83	0.14

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私の授業哲学は、学生一人一人が、「スポーツと社会をつなげる知」を獲得できるよう、仲間と切磋琢磨しながら、何事にも全力で挑戦できる学習環境の中で、充実した学びができるようにしていくことです。一方的な知識の伝達に終わらないよう、身に付けたことを試して行っている場を設定し、試行錯誤しながら自分のものにしていく、こうしたアクティブな学びの場を設定できるようにしています。また、学生をつぶやきを聴き、日々の授業改善を図ることを通して、社会や教育現場に生きる力が身に付くようにする。私自身も「挑戦」をテーマに充実した授業づくりを今後も意識していきます。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

実技を中心とした科目において、他の科目と比較し、「満足度」や「自信」といった項目において、低い数値を示していることから、改善を図る必要があると捉えています。そこで、授業内容を見直し、「身に付く」「役に立つ」実感がもてるような内容に、改善していくことが必要だと考えます。また、一人一人が自己の伸びを実感できるような内容とともに、本学の五訓も意識し、授業の中で、非認知能力の育成を意識するような「他者との協働的な学びの場」や「目標達成の場」を位置付けるようにしていきたいと考えます。授業で学んだことが、社会の中で総合的に生きていくような力を育んでいきます。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

シラバスに記載のとおり、知識的領域、技能的領域、態度的領域といった多様な角度から、成績評価については整理しています。また、授業で扱い、指導した内容を成績評価に生かしていくことに留意しています。授業で取り上げる内容の理解やその理解にもとづいたまとめや実践ができているかをみています。こうした過程が、明確にできるよう、事前に説明責任を果たすようにし、どういった点を評価しているのか、それは何のためか、をわかりやすく伝えていけるように今後は改善を図っていきたく考えています。

### 4. 学生へのメッセージ

ともに学び、ともに成長していけるよう、1時間1時間の授業を大切にしようと思っています。「これは疑問だな」、また、「どうしたらいいのだろう?」といった疑問などあれば、つぶやいてほしいと思います。こうした学生一人一人の声、思いを大事にしながら、よりみなさんにとって、「ためになる」と思えるような授業が提供できるようにしていきたいと思っています。一方的な自己満足な授業にならないようにし、みなさんが社会や教育現場に出たときに、自分の役割をしっかりと果たせる社会人として自律できるよう、ともに授業を創っていきたくと思っています。

担当:教務課/IR調査・分析委員会





## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

受講学生が積極的に参加し、学生と共に、楽しい授業を円滑に行う事が私の授業方針です。  
体育実技だけではなく、教員採用試験等で実際に出題された問題集、指導案を配布し、質の高い授業を展開します。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

初心者に対するハンドボール指導法を中心に実演し、指導ポイントを重点的に指導した。  
採用試験で実際に出題された問題を用い、授業の中で専門性を学ぶことにより、学生の興味、関心を得る事が出来た。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

ハンドボールの特性(飛ぶ・投げる・走る)を理解し、指導法を伝授できた。  
成績評価について:実技テストの習熟度により、評価を決定した。また、授業の出席率、理解度、姿勢により、加点した。

### 4. 学生へのメッセージ

皆さんのおかげで楽しく、怪我無く、授業を展開する事が出来ました。  
授業を履修し、楽しい授業を共に作ってくれてありがとうございました。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
発育と発達	131	108	82.4	4.33	0.57	4.28	0.59	4.19	0.71	4.31	0.66
体力学実習	11	11	100.0	4.82	0.15	4.91	0.08	4.82	0.15	4.82	0.15
基礎ゼミナールⅡ [通年]体育学科①	169	143	84.6	4.13	0.73	4.10	0.77	4.11	0.77	4.20	0.67
ゼミナールⅡ(応用)	8	8	100.0	4.13	1.11	4.13	1.11	4.13	1.11	4.25	0.94
ゼミナールⅠ(基礎)	13	12	92.3	4.92	0.08	4.92	0.08	4.83	0.14	4.83	0.14
スポーツのリスクマネジメント	170	142	83.5	4.40	0.61	4.35	0.69	4.37	0.68	4.39	0.65
コンピュータリテラシーⅡ [PP2365組用]	52	43	82.7	4.23	0.74	4.26	0.70	4.19	0.71	4.23	0.74
コンピュータリテラシーⅡ [PP2361組用]	48	36	75.0	4.36	0.51	4.36	0.56	4.31	0.55	4.39	0.52

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

自発的に学んでもらうということが、私の授業方針である。  
それを達成するには、学生の身近なテーマを用いて興味を持たせる工夫や、興味深い資料を提示することが重要である。また、常に「自分に置き換えて考えてみる」ことを行ってもらうことで、良い授業になると考えている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

ほとんどの科目において昨年度より高い傾向にあった。昨年度の授業評価アンケートの結果から改善策をとり、授業で行った課題を繰り返し行うことや、授業の復習の時間を多くすること、加えて授業を通して達成感を得られるように授業内容を変更したことが授業評価改善につながったと考えられる。また、学生自身が考えたり活動したりする時間を増やし、その結果を数値化してフィードバックすることも効果的であったかもしれない。今年度も引き続きこれらのことを意識して授業を実施するとともに、さらに良い授業を実施出来るよう工夫したいと考えている。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

授業評価アンケートは昨年度と比較して改善したものの、成績評価はほとんどの科目で大きな変化はみられなかった。受講者数が比較的少ない科目(コンピュータリテラシー等)においては、学生1人1人へのコミュニケーションが少なかったことが要因であると考えられる。授業で行った課題を繰り返し行うことや、授業の復習の時間を多くすること、加えて学生が主体となって学ぶ時間を増やす工夫が必要である。受講者が100名を超える授業においてもできる限り1人1人に対して気配りを行うことで更なる授業の改善も心掛けたい。

### 4. 学生へのメッセージ

2023年度は多くの学生が私の授業を受講してくれました。とても嬉しく思います。私の担当しているほとんどの授業は双方向型の授業になるようにしており、受講生の活発な意見交換や授業に対する積極的な姿勢が必要不可欠となります。これからもより魅力的な授業を展開するために尽力いたします。皆様もご協力おねがいします。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
保健体育科指導法Ⅳ(実践)	1	1	100.0	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP2年生用]	64	53	82.8	4.58	0.43	4.55	0.51	4.38	0.73	4.55	0.51
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP2年生用]	41	29	70.7	4.72	0.34	4.62	0.44	4.48	0.53	4.52	0.53
教職実践演習(中学校・高等学校)	124	94	75.8	4.50	0.55	4.38	0.62	4.41	0.56	4.45	0.52
ゼミナールⅡ(応用)	15	9	60.0	4.89	0.10	4.89	0.10	4.89	0.10	4.89	0.10
ゼミナールⅠ(基礎)	8	7	87.5	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00	5.00	0.00
スポーツのリスクマネジメント	170	142	83.5	4.40	0.61	4.35	0.69	4.37	0.68	4.39	0.65
キャリアマネジメントⅢ [教員]	16	16	100.0	4.81	0.15	4.81	0.15	4.69	0.34	4.81	0.15
キャリアマネジメントⅠ [教員]	90	75	83.3	4.44	0.46	4.39	0.53	4.27	0.73	4.33	0.62

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

2023年度後期、上記科目では学生に応じた目標を設定し、それに向けて授業を展開していけるよう修正して行なっている。また、その際に目標を学生たちとも必ず共有するように意識した。科目の全体構成としては、これまでの授業実施経験から理論からよりも実践(体験)から、具体的な内容からよりも抽象的な内容からという流れの方が意欲的に学べるのではないかという仮説をもっていたため、主担当科目については仮説検証を試みることを意識して構成した。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

「ゼミナールⅠ」では、前年度(4.50程度)の反省を生かしてチームビルディングや体験的学習に重きを置いた。その結果、本年度は5.00の評価を得ることができている。また、「ゼミナールⅡ」では、14名の学生に卒業研究を取り組ませたが4.89の満足度を得ることができた。同じメンバーの昨年度の「ゼミナールⅠ」が4.50程度だったことを踏まえると大きく立て直すことができたと考えている。また、「教職実践演習」においても単に模擬授業を経験させてという構成ではなく、現場の課題に応じて主要な先生の専門性を発揮できる構成に再編成したが、成果を挙げることができたと考える。「キャリアマネジメントⅠ」、「キャリアマネジメントⅢ」は、教職を強く志望する学生たちに対して、期待に沿う授業を提供できていると考える。今後は、履修者を増やせるよう学科内で周知していくことが課題である。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

「ゼミナールⅡ」では、14名の学生に卒業研究に取り組ませて13名の学生がS評価、A評価、その内で1名は優秀論文賞を受賞している。チームビルディングがしっかりとできていれば、多少は厳しいことを課しても学生の不満にはならず、最後までやり抜けることが明らかになった。各種試験対策を終えた学生が自ら立てた問いに向かって主体的・対話的に深く学んでいた様相が学生コメントに多く記載されていた。このことは6年間実施してきた中で大きな成果として評価したい。他方で、担当教員が大きな労力を払っており、ICT等を使った相互評価システム等をもっと上手く機能させることが課題である。今後は学生たちが使いやすく馴染みあるツールを効率よく使用して指導ができるようにコンテンツの使用法の開発に学生とともに取り組んでいくようにする。

### 4. 学生へのメッセージ

何か聞きたいことがありましたら、いつでも研究室に来てください。よろしくお願いします。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

## 1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
保健体育科指導法Ⅲ(発展) [PP2年生用]	39	30	76.9	4.37	0.43	4.33	0.49	4.23	0.78	4.33	0.49
武道指導論 [剣道]	12	12	100.0	4.25	1.02	4.25	1.02	4.25	1.02	4.17	0.97
武道指導演習Ⅱ(応用)	14	14	100.0	4.64	0.52	4.64	0.52	4.64	0.52	4.64	0.52
教職実践演習(中学校・高等学校)	124	94	75.8	4.50	0.55	4.38	0.62	4.41	0.56	4.45	0.52
ゼミナールⅡ(応用)	10	10	100.0	4.60	0.84	4.50	0.85	4.50	0.85	4.50	0.85
ゼミナールⅠ(基礎)	11	10	90.9	4.40	0.64	4.50	0.45	4.50	0.45	4.40	0.64

## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

私の授業方針は、教員から一方的に知識、技能を伝えるのではなく、必ず学生とのキャッチボールをしながら授業を進めていくことである。高校教員時代から現在の大学教員になっても変わらない点である。また、学生の自主的学習活動を多く入れることが特徴である。あるテーマについてグループで話し合い、発表し合い、また時にはその結果をホワイトボードに学生自らが書く経験をさせる。担当は教職科目が多いので、学生自身が黒板に書いたり、人前で発表する場面を多く授業に取り入れている。重要なことは、学生が授業を聴くだけでなく、何らかの学習活動をしながらか知識、技能、非認知能力等身に付け、学びを深めてもらいたいと思っている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

各科目の授業評価に関しては、担当した6科目すべてが4以上の評価になっていることから、概ね学生が授業に満足していると考えられる。(満足度)評価4.17の武道指導論については、予定した五輪書の領域すべての内容が時間の関係上取り扱いできなかったことや内容をもっとわかりやすく(剣道実践につなげる)しなければならなかったと感じている。剣道の教えの中で、五輪書の内容の中に根源があることを今後の授業でもっとわかりやすく伝えていきたいと考えている。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

・教職実践演習は、2024年4月からの教職生活を円滑に行えるように授業形態を変更し、模擬授業を中心に行った。1回目よりは2回目、2回目よりは3回目の模擬授業がよりよい授業となり、学生の授業力向上、進歩がみられ、授業形態を変更してよかったと考えられる。また、ほぼ全員の学生が意欲的・積極的に取り組んでくれた。教育現場に立つ教師として、自分に身につけている力は何か、不足している力は何かを確認できたのではないかと考えている。今年度の教員採用試験の合格者数は過去最高値であった。また私学への採用人数も最も多かった。4月からの学校現場で本大学で学んだ教育実践力を十分発揮してくれることを願っている。

・武道指導演習Ⅱは、昨年度から始まった授業である。教員志望や警察官、消防士希望の学生が剣道1級、さらに初段まで取得して採用試験に活かそうとする科目である。受講者のほとんどが全日本剣道連盟1級または初段を取得することができた。来年度も多くの学生に剣道の級位や段位を取得してもらいたいと思っている。

### 4. 学生へのメッセージ

自身が担当する授業に、意欲的・積極的に参加していただき、ありがとうございました。平田の授業も含めて、授業は「目で聴く」ものと心得てください。そうしていれば、必ず学問のおもしろさ、学ぶことの楽しさが理解できてくると思います。今後、事前・事後学習がさらに必要な高度な専門知識を取り扱う授業が増えてきます。またグループワーク、ディスカッションの時間も今以上に増えてきます。学生時代の学問(体育科学)分野で、「自分の専門はこれだった」と言えるような科目、専門分野を見つけてください。そして学生時代にしかできないことに挑戦してください。

担当:教務課/IR調査・分析委員会

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目を含むすべての科目

担当科目名	履修者数 (履修放棄者除く)	回答数	回答率	項目1(注意)		項目2(関連)		項目3(自信)		項目4(満足)	
				平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
体育理論	573	476	83.1	4.21	0.68	4.20	0.69	4.11	0.81	4.22	0.65
基礎ゼミナールⅡ [通年]体育学科①	169	143	84.6	4.13	0.73	4.10	0.77	4.11	0.77	4.20	0.67
ゼミナールⅡ(応用)	15	12	80.0	4.92	0.08	4.92	0.08	4.83	0.31	5.00	0.00
ゼミナールⅠ(基礎)	15	14	93.3	4.79	0.17	4.79	0.17	4.71	0.35	4.79	0.17
スポーツ栄養学実習	23	20	87.0	4.90	0.09	4.90	0.09	4.80	0.16	4.85	0.23
スポーツ栄養学 [体育学科用]	233	201	86.3	4.40	0.53	4.36	0.56	4.27	0.69	4.34	0.66
スポーツ栄養学 [健康科学科用]	65	64	98.5	4.34	0.51	4.25	0.63	4.28	0.64	4.28	0.61



## 2. 授業のリフレクション

### 1. 私の授業哲学(または授業方針)

日常生活や競技生活での疑問や悩みなどを学習内容を通じて解決できるような授業を展開している。大学での授業は学んだことを知識で留めず、実践に移すことが必要である。そのためにも主体的に学ぶことや復習をしっかりと行うことに重点を置いている。

### 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

・スポーツ栄養学:競技と食事・栄養の関係を結びつけることによって自身の生活に落とし込み、競技に役立ててもらうように授業内容を工夫した。その結果、比較的高い満足度を得ることができた感じている。

・スポーツ栄養学実習:2年次後期のスポーツ栄養学の知識を活かし、3年次通年でより実践的な内容で授業を行っている。普段は行う機会の少ない栄養計算の手法や献立作成について学んでもらい自身の日常生活に役立つよう授業を展開したことから非常に高い満足度を得たと感じている。

### 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

・スポーツ栄養学:授業態度および定期試験において成績評価を行っている。定期試験では知識を問う問題に加えて、論述にて自身の経験も踏まえて記述できる問題を交え評価することで公平な評価を行っていると考えている。

・スポーツ栄養学実習:課題提出やプレゼン発表等にて成績評価を行っている。自身の食生活の振り返り等に関して意識できたことや改善点をポイントを押さえてプレゼンできているか評価することで公平な評価を行っていると考えている。

### 4. 学生へのメッセージ

スポーツ栄養学では、生理学など他の学問と関連する内容も踏まえ、科学的な知見を紹介しながら伝えました。自身の競技生活やトレーナー活動のみならず、健康増進にも役立つ分野のため、今後も学習を続け実践してもらいたいと思います。

担当:教務課/IR調査・分析委員会